



**Cisco Unified Communications  
Operating System  
アドミニストレーション ガイド**

Release 6.0(1)

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCVP, the Cisco Logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0612R)

*Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド*  
Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.



## CONTENTS

<b>このマニュアルについて</b>	<b>xi</b>
目的	xi
対象読者	xi
マニュアルの構成	xii
関連マニュアル	xii
表記法	xiii
技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン	xiv
シスコ製品のセキュリティの概要	xiv

---

### CHAPTER 1

<b>はじめに</b>	<b>1-1</b>
概要	1-1
ブラウザ要件	1-2
オペレーティング システムのステータスと設定	1-2
設定	1-3
セキュリティ設定	1-3
ソフトウェア アップグレード	1-4
サービス	1-4
コマンドライン インターフェイス	1-4

---

### CHAPTER 2

<b>Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページへのログイン</b>	<b>2-1</b>
Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページへのログイン	2-1
管理者パスワードの回復	2-3

---

### CHAPTER 3

<b>ステータスと設定</b>	<b>3-1</b>
クラスタ ノード	3-1
ハードウェア ステータス	3-2
ネットワーク ステータス	3-3
インストールされているソフトウェア	3-4
システム ステータス	3-5
RAID ドライブの再構築	3-6

CHAPTER 4

<b>設定</b>	<b>4-1</b>
IP 設定	4-1
イーサネットの設定	4-1
パブリッシャの設定	4-2
Cisco Unified Communications Manager 後続ノードでの IP アドレスの変更	4-2
NTP サーバ	4-3
SMTP 設定	4-4
時間の設定	4-4

CHAPTER 5

<b>システムの再起動</b>	<b>5-1</b>
バージョンを切り替えて再起動	5-1
現在のバージョンの再起動	5-2
システムのシャットダウン	5-3

CHAPTER 6

<b>セキュリティ</b>	<b>6-1</b>
Internet Explorer のセキュリティ オプションの設定	6-1
証明書と証明書信頼リストの管理	6-2
証明書の表示	6-2
証明書または CTL のダウンロード	6-2
証明書の削除と再作成	6-3
証明書の削除	6-3
証明書の再作成	6-3
証明書または証明書信頼リストのアップロード	6-4
証明書のアップロード	6-4
証明書信頼リストのアップロード	6-5
ディレクトリの信頼証明書のアップロード	6-5
サードパーティの CA 証明書の使用法	6-6
証明書署名要求の作成	6-7
証明書署名要求のダウンロード	6-7
サードパーティの CA 証明書の取得	6-8
証明書の有効期限日の監視	6-8
IPSEC の管理	6-9
新しい IPsec ポリシーの設定	6-9
既存の IPsec ポリシーの管理	6-11

CHAPTER 7

<b>ソフトウェア アップグレード</b>	<b>7-1</b>
ソフトウェアのアップグレードとインストール	7-2
Cisco Unified Communications Manager Release 6.0(1) へのアップグレード	7-2

アップグレード ファイルの取得	7-3
ローカル ソースからのアップグレード	7-3
リモート ソースからのアップグレード	7-5
アップグレードの途中停止	7-6
以前のバージョンへの復帰	7-7
ダイヤル プランのインストール	7-7
ロケールのインストール	7-8
ロケールのインストール	7-8
ロケール ファイル	7-9
エラー メッセージ	7-9
Cisco Unified Communication 製品のサポート	7-10
TFTP サーバ ファイルの管理	7-11

## CHAPTER 8

<b>サービス</b>	8-1
Ping	8-1
リモート サポート	8-2

## APPENDIX A

<b>コマンドライン インターフェイス</b>	A-1
概要	A-1
CLI セッションの開始	A-1
CLI の基本	A-2
コマンドの補完	A-2
コマンドのヘルプの取得	A-2
CLI セッションの終了	A-3
Cisco IPT Platform CLI コマンド	A-4
delete account	A-4
delete dns	A-4
delete ipsec	A-5
delete process	A-5
delete smtp	A-6
file check	A-6
file delete	A-7
file dump	A-8
file get	A-9
file list	A-10
file search	A-11
file tail	A-12
file view	A-13
run sql	A-14

set account	A-14
set commandcount	A-15
set ipsec	A-15
set logging	A-15
set network dhcp	A-16
set network dns	A-16
set network dns options	A-17
set network domain	A-17
set network failover	A-18
set network gateway	A-18
set network ip	A-19
set network mtu	A-19
set network max_ip_contrack	A-20
set network nic	A-20
set network pmtud	A-21
set network status	A-21
set password	A-22
set smtp	A-22
set timezone	A-22
set trace	A-23
set web-security	A-24
set workingdir	A-24
show account	A-25
show cert	A-25
show environment	A-26
show firewall list	A-26
show hardware	A-27
show ipsec	A-27
show logins	A-28
show memory	A-28
show myself	A-28
show network	A-29
show open	A-30
show packages	A-30
show perf counterhelp	A-31
show perf list categories	A-31
show perf list classes	A-31
show perf list counter	A-32

show perf list instances	A-32
show perf query class	A-33
show perf query counter	A-33
show perf query instance	A-34
show perf query path	A-34
show process	A-35
show registry	A-36
show risdb	A-36
show smtp	A-37
show stats io	A-37
show status	A-38
show tech all	A-38
show tech ccm_service	A-39
show tech database	A-39
show tech dbintegrity	A-39
show tech dbinuse	A-39
show tech dbschema	A-40
show tech dbstateinfo	A-40
show tech devdefaults	A-40
show tech gateway	A-40
show tech locales	A-41
show tech network	A-41
show tech notify	A-41
show tech params all	A-42
show tech params enterprise	A-42
show tech params service	A-42
show tech prefs	A-42
show tech procedures	A-43
show tech routepatterns	A-43
show tech routeplan	A-43
show tech runtime	A-43
show tech systables	A-44
show tech system	A-44
show tech table	A-45
show tech triggers	A-45
show tech version	A-45
show timezone	A-46
show trace	A-46

show ups status	A-47
show version	A-47
show web-security	A-47
show workingdir	A-47
unset ipsec	A-48
unset network	A-48
utils core list	A-48
utils core analyze	A-49
utils csa disable	A-49
utils csa enable	A-49
utils csa status	A-50
utils dbreplication status	A-50
utils dbreplication stop	A-50
utils dbreplication repair	A-50
utils dbreplication reset	A-50
utils disaster_recovery backup tape	A-51
utils disaster_recovery backup network	A-51
utils disaster_recovery cancel_backup	A-52
utils disaster_recovery restore tape	A-52
utils disaster_recovery restore network	A-52
utils disaster_recovery show_backupfiles network	A-53
utils disaster_recovery show_backupfiles tape	A-53
utils disaster_recovery show_registration	A-54
utils disaster_recovery show_tapeid	A-54
utils disaster_recovery status	A-54
utils fior	A-55
utils iothrottle enable	A-55
utils iothrottle disable	A-55
utils iothrottle status	A-56
utils netdump client	A-56
utils netdump server	A-57
utils network arp	A-58
utils network capture eth0	A-58
utils network host	A-59
utils network ping	A-59
utils network tracert	A-60
utils ntp	A-60
utils remote_account	A-60



utils reset_ui_administrator_name	A-61
utils reset_ui_administrator_password	A-61
utils service list	A-61
utils service	A-62
utils sftp handshake	A-62
utils snmp test	A-62
utils soap realservice test	A-63
utils system	A-63
utils system upgrade	A-64





# このマニュアルについて

---

## 目的

このマニュアルでは、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) および Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使用して、さまざまなシステムおよびネットワークに関連する共通タスクを実行する方法について説明します。

## 対象読者

このマニュアルは、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理およびサポートを担当するネットワーク管理者を対象としています。ネットワーク エンジニア、システム管理者、またはテレコム エンジニアはこのマニュアルを使用して、オペレーティング システムの機能を学習し管理します。テレフォニーおよび IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。

## マニュアルの構成

次の表は、このマニュアルの構成を示しています。

章	説明
第1章「はじめに」	この章では、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムで使用できる機能の概要について説明します。
第2章「Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページへのログイン」	この章では、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムにログインする手順、および紛失した管理パスワードの回復手順について説明します。
第3章「ステータスと設定」	この章では、オペレーティングシステムのステータスおよび設定を表示する手順について説明します。
第4章「設定」	この章では、イーサネット設定、IP設定、およびNTP設定の表示および変更手順について説明します。
第5章「システムの再起動」	この章では、システムの再起動およびシャットダウンの手順について説明します。
第6章「セキュリティ」	この章では、証明書の管理およびIPSecの管理の手順について説明します。
第7章「ソフトウェアアップグレード」	この章では、ソフトウェアアップグレードをインストールする手順およびTFTPサーバにファイルをアップロードする手順について説明します。
第8章「サービス」	この章では、ping およびリモートサポートを含むオペレーティングシステムが提供するユーティリティの使用手順について説明します。
付録A「コマンドラインインターフェイス」	この付録では、使用可能なコマンド、コマンド構文、およびパラメータを含むコマンドラインインターフェイスに関する情報について説明します。

## 関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー アプリケーションおよび製品に関連する詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Documentation Guide』を参照してください。

## 表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[ x y z ]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	例の中で重要なテキストを強調しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイント アドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

情報には役立つヒントが含まれることを意味します。

注意は、次のように表しています。



#### 注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



#### 警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

## 技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

### シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、[export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) まで電子メールを送信してください。



## はじめに

---

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Unified Communications オペレーティング システムを使用して多くの一般的なシステム管理機能を実行できます。

この章は、次の内容で構成されています。

- [概要](#)
- [ブラウザ要件](#)
- [オペレーティング システムのステータスと設定](#)
- [セキュリティ設定](#)
- [ソフトウェア アップグレード](#)
- [サービス](#)
- [コマンドライン インターフェイス](#)

## 概要

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページでは、Cisco Unified Communications オペレーティング システムを設定および管理できます。管理タスクには、次のものがあります。

- ソフトウェアとハードウェアのステータス チェック
- IP アドレスのチェックと更新
- 他のネットワーク デバイスへの ping
- NTP サーバの管理
- システム ソフトウェアとオプションのアップグレード
- サーバのセキュリティ管理 (IPSec や証明書なども含む)
- リモート サポート アカウントの管理
- システムの再起動

次の項では、オペレーティング システムの各機能について詳細に説明します。

## ブラウザ要件

Cisco Unified Communications オペレーティング システムには、次のブラウザでアクセスできます。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.x
- Netscape Navigator バージョン 7.1 以上



(注) シスコは、上記以外のブラウザ (Mozilla Firefox など) のサポートやテストは行っていません。

製品のすべての機能が正常に動作するためには、Cisco Unified Communications オペレーティング システム サーバの URL (<https://servername>) がブラウザの信用済みサイト欄またはローカル イントラネット サイト欄に入っている必要があります。

## オペレーティング システムのステータスと設定

[表示] メニューでは、次に示すさまざまなオペレーティング システム コンポーネントのステータスをチェックできます。

- クラスタとノード
- ハードウェア
- ネットワーク
- システム
- インストールされているソフトウェアとオプション

詳細については、[第3章「ステータスと設定」](#)を参照してください。



## 設定

[設定]メニューでは、次のオペレーティングシステム設定の表示と更新ができます。

- IP：アプリケーションのインストール時に入力された IP アドレスおよび Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) クライアントの設定を更新します。
- NTP サーバ設定：外部 NTP サーバの IP アドレスを設定し、NTP サーバの追加や削除を行います。
- SMTP 設定：オペレーティングシステムがメール通知の送信に使用する SMTP ホストを設定します。

詳細については、[第4章「設定」](#)を参照してください。

[設定]>[バージョン]ウィンドウでは、次のようなシステムの再起動またはシャットダウンのオプションを選択できます。

- バージョンの切り替え：アクティブなディスクパーティションとアクティブでないディスクパーティションを切り替え、システムを再起動します。通常このオプションは、アクティブでないパーティションを更新した後、新しいソフトウェアバージョンを実行する場合に選択します。
- 現在のバージョン：パーティションを切り替えずに、システムを再起動します。
- システムのシャットダウン：実行中のすべてのソフトウェアを停止し、サーバをシャットダウンします。



(注) このコマンドを実行しても、サーバの電源は切れません。サーバの電源を切るには、電源ボタンを押します。

詳細については、[第5章「システムの再起動」](#)を参照してください。

## セキュリティ設定

オペレーティングシステムのセキュリティ オプションを使用すると、セキュリティ証明書と Secure Internet Protocol (IPSec) を管理できます。[セキュリティ]メニューでは、次のセキュリティ オプションを選択できます。

- 証明書の管理：証明書、証明書信頼リスト (CTL) および証明書署名要求 (CSR) を管理します。証明書の表示、アップロード、ダウンロード、削除、および再作成ができます。[証明書の管理]を使用すると、サーバ上の証明書の有効期限を監視することもできます。
- IPSEC の管理：既存の IPSEC ポリシーの表示または更新、新規の IPSEC ポリシーと割り当ての設定を行います。

詳細については、[第6章「セキュリティ」](#)を参照してください。

## ソフトウェアアップグレード

ソフトウェアアップグレードオプションを使用すると、オペレーティングシステムで実行されているソフトウェアバージョンをアップグレードしたり、特定のソフトウェアオプション（Cisco Unified Communications オペレーティングシステム ロケール インストーラ、ダイヤル プラン、TFTP サーバ ファイルなど）をインストールしたりできます。

[インストール / アップグレード] メニュー オプションでは、ローカル ディスクまたはリモートサーバからシステム ソフトウェアをアップグレードできます。アップグレードされたソフトウェアはアクティブでないパーティションにインストールされ、アップグレード後にシステムを再起動してパーティションを切り替えると、新しいソフトウェアバージョンの実行が開始されます。



(注)

Cisco Unified Communications オペレーティングシステム 6.0(1) の場合は、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの GUI および CLI ユーザーインターフェイスに含まれるソフトウェアアップグレード機能を使用して、すべてのソフトウェアのインストールとアップグレードを実行する必要があります。システムでアップロードと処理が可能なソフトウェアは、システムが承認したものに限られます。Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの以前のバージョンで使用していたサードパーティ製もしくは Windows ベースのソフトウェアアプリケーションは、Cisco Unified Communications Manager 6.0(1) と共にインストールしたり使用したりできません。

詳細については、[第7章「ソフトウェアアップグレード」](#)を参照してください。

## サービス

このアプリケーションには、次のオペレーティングシステムユーティリティが搭載されています。

- Ping：他のネットワーク デバイスとの接続をチェックします。
- リモートサポート：シスコのサポート担当者がシステムへのアクセスに使用できるアカウントを設定します。このアカウントは、指定された日数が経過すると、自動的に失効します。

詳細については、[第8章「サービス」](#)を参照してください。

## コマンドライン インターフェイス

コマンドライン インターフェイスには、コンソールから、またはサーバへのセキュア シェル接続でアクセスできます。詳細については、[付録 A「コマンドライン インターフェイス」](#)を参照してください。



# Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの 管理ページへのログイン

この章では、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページにアクセスする手順および紛失したパスワードを回復する手順について説明します。

## Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 ページへのログイン

Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページにアクセスするには、次の手順を実行します。



(注) Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページを使用している間は、ブラウザのコントロール ([ 戻る ] ボタンなど) は使用しないでください。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインします。

**ステップ 2** [ Cisco Unified Communications Manager の管理 ] ウィンドウの右上にある [ ナビゲーション ] メニューで、[ Cisco Unified OS の管理 ] を選択して [ 移動 ] をクリックします。

[ Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 ] ログイン ウィンドウが表示されます。



(注) また、次の URL を入力して、直接 Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページにアクセスすることもできます。  
`http://server-name/cmplatform`

**ステップ 3** 管理者ユーザ名とパスワードを入力します。



**(注)** 管理者ユーザ名とパスワードは、インストール時に決めるか、コマンドライン インターフェイスを使用して作成します。

---

**ステップ 4** [送信] をクリックします。

[ Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 ] ウィンドウが表示されます。

---

## 管理者パスワードの回復

管理者パスワードを紛失したためにシステムにアクセスできない場合は、次の手順を実行して管理者パスワードをリセットします。



(注) この手順の実行中は、システムへ物理的にアクセスできることを証明するため、有効な CD または DVD をいったんディスクドライブから取り出し、再び挿入するように求められます。

### 手順

**ステップ 1** 次のユーザ名とパスワードを使用して、システムにログインします。

- ユーザ名 : `pwrecovery`
- パスワード : `pwreset`

[ Welcome to admin password reset ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 任意のキーを押して続行します。

**ステップ 3** ディスクドライブに CD または DVD が入っている場合は取り出します。

**ステップ 4** 任意のキーを押して続行します。

システムは、CD または DVD がディスクドライブから取り出されたことを確認します。

**ステップ 5** 有効な CD または DVD をディスクドライブに挿入します。

システムは、ディスクが挿入されたことを確認します。

**ステップ 6** システムがディスクの挿入を確認すると、新しい管理者パスワードを入力するよう指示されます。



(注) 管理者ユーザ名は `admin` にリセットされます。別の管理者ユーザ名とパスワードを設定する場合は、CLI コマンドの `set password` を使用します。詳細については、[付録 A 「コマンドライン インターフェイス」](#) を参照してください。

**ステップ 7** 新しいパスワードを再度入力します。

システムは、新しいパスワードの強度をチェックします。入力したパスワードの文字の組み合わせが不十分な場合は、新しいパスワードを入力するよう指示されます。

**ステップ 8** 新しいパスワードの強度が確認されると、このパスワードにリセットされ、任意のキーを押してリセットユーティリティを終了するよう指示されます。

■ 管理者パスワードの回復



## ステータスと設定

この章ではシステムの管理について説明します。この章は次の内容で構成されています。

- クラスタ ノード
- ハードウェア ステータス
- ネットワーク ステータス
- インストールされているソフトウェア
- システム ステータス

オペレーティング システム、プラットフォームのハードウェア、またはネットワークのステータスを表示できます。

### クラスタ ノード

クラスタ内のノードに関する情報を表示するには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ 表示 ] > [ クラスタ ] を選択します。

[ クラスタノード (Cluster Nodes) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ クラスタノード ] ウィンドウの各フィールドの説明については、表 3-1 を参照してください。

表 3-1 クラスタ ノードのフィールド説明

フィールド	説明
ホスト名 (Hostname)	サーバの完全ホスト名を表示します。
IP アドレス (IP Address )	サーバの IP アドレスを表示します。
エイリアス (Alias)	サーバのエイリアス名を表示します ( 定義されている場合 )。
ノードのタイプ (Type of Node)	サーバがパブリッシャ ノードかサブスクリバ ノードかを示します。

## ハードウェア ステータス

ハードウェア ステータスを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ 表示 ] > [ ハードウェア ] を選択します。

[ ハードウェアステータス ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ ハードウェアステータス ] ウィンドウの各フィールドの説明については、[表 3-2](#) を参照してください。

表 3-2 ハードウェア ステータスのフィールド説明

フィールド	説明
プラットフォームタイプ (Platform Type)	プラットフォーム サーバのモデル ID を表示します。
プロセッサ速度 (Processor Speed)	プロセッサの速度を表示します。
CPU タイプ (The CPU type)	プラットフォーム サーバのプロセッサのタイプを表示します。
メモリ (Memory)	メモリの総量を MB (メガバイト) で表示します。
オブジェクト ID(Object ID)	オブジェクト ID を表示します。
OS バージョン (OS Version)	オペレーティング システムのバージョンを表示します。



## ネットワークステータス

表示されるネットワークステータス情報は、ネットワークの耐障害性が有効になっているかどうかによって異なります。ネットワークの耐障害性が有効になっていると、イーサネットポート0に障害が発生した場合、イーサネットポート1が自動的にネットワーク通信を継承します。ネットワークの耐障害性が有効になっている場合、ネットワークステータス情報にはネットワークポートのイーサネット0、イーサネット1、およびBond0が表示されます。ネットワークの耐障害性が有効になっていない場合、ステータス情報にはイーサネット0のみが表示されます。

ネットワークステータスを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ1** [Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理] ウィンドウで、[表示]>[ネットワーク]を選択します。

[ネットワーク設定 (Network Configuration)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [ネットワーク設定] ウィンドウの各フィールドの説明については、表3-3を参照してください。

表 3-3 ネットワーク設定のフィールド説明

フィールド	説明
ステータス (Status)	イーサネットポート0と1について、ポートがアップかダウンかを示します。
DHCP	イーサネットポート0について、DHCPが有効になっているかどうかを示します。
MAC アドレス (MAC Address)	ポートのハードウェアアドレスを表示します。
IP アドレス (IP Address)	イーサネットポート0 (およびイーサネットポート1 (ネットワーク耐障害性 (NFT) が有効になっている場合)) の IP アドレスを表示します。
IP マスク (IP Mask)	イーサネットポート0 (およびイーサネットポート1 (NFT が有効になっている場合)) の IP マスクを表示します。
リンク検出済 (Link Detected)	アクティブなリンクがあるかどうかを示します。
MTU	最大伝送ユニットを表示します。
キューの長さ (Queue Length)	キューの長さを表示します。
RX 統計 (RX Stats)	受信済みのバイトとパケットに関する情報を表示します。
TX 統計 (TX Stats)	送信済みのバイトとパケットに関する情報を表示します。
プライマリ (Primary)	プライマリ ドメイン ネーム サーバの IP アドレスを表示します。
セカンダリ (Secondary)	セカンダリ ドメイン ネーム サーバの IP アドレスを表示します。
ドメイン (Domain)	サーバのドメインを表示します。
ゲートウェイ (Gateway)	イーサネットポート0上のネットワークゲートウェイの IP アドレスを表示します。

## インストールされているソフトウェア

ソフトウェア バージョンとインストールされているソフトウェア オプションを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ 表示 ] > [ ソフトウェア ] を選択します。

[ ソフトウェアパッケージ (Software Packages) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ ソフトウェアパッケージ ] ウィンドウの各フィールドの説明については、[表 3-4](#) を参照してください。

表 3-4 ソフトウェア パッケージのフィールド説明

フィールド	説明
パーティションのバージョン (Partition Versions)	アクティブなパーティションとアクティブでないパーティションで実行されているソフトウェア バージョンを表示します。
インストールされているアクティブなソフトウェア オプションのバージョン (Active Version Installed Software Options)	インストールされているソフトウェア オプションのバージョンを示します。これには、アクティブ バージョンにインストールされているロケールとダイヤル プランも含まれます。
インストールされているアクティブでないソフトウェア オプションのバージョン (Inactive Version Installed Software Options)	インストールされているソフトウェア オプションのバージョンを示します。これには、アクティブでないバージョンにインストールされているロケールとダイヤル プランも含まれます。

## システム ステータス

システム ステータスを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ 表示 ] > [ システム ] を選択します。

[ システムステータス (System Status) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ システムステータス ] ウィンドウの各フィールドの説明については、[表 3-5](#) を参照してください。

表 3-5 プラットフォームのステータスのフィールド説明

フィールド	説明
ホスト名 (Host Name)	Cisco Unified Communications オペレーティング システムがインストールされているホスト名を表示します。
日付 (Date)	オペレーティング システムのインストール時に指定された大陸と地域に基づいて、日時を表示します。
タイムゾーン (Time Zone)	インストール時に選択されたタイムゾーンを表示します。
ロケール (Locale)	オペレーティング システムのインストール時に選択された言語を表示します。
製品バージョン (Product Version)	オペレーティング システムのバージョンを表示します。
プラットフォームバージョン (Platform Version)	プラットフォームのバージョンを表示します。

## RAID ドライブの再構築

RAID ドライブに障害が発生した場合に、通常運用中に論理ペアの一方の物理ドライブを手動で再構築しなければならない場合があります。

RAID 構成のディスク (RAID アレイとも呼ばれる) は、複数の論理ペアで構成されています。1 つの論理ペアは、2 つの物理ドライブで構成されます。このペアは、リアルタイムに同じデータを持つ同期状態を維持し、冗長性を保つので、データの保全性と確実性が確保されます。1 つの物理ドライブが同期に失敗するか、読み取りまたは書き込みエラーが発生するようになった場合は、そのドライブの再構築が必要になる場合があります。障害の原因はさまざまですが、最も重要な問題は、物理ドライブの一方の障害によって論理ドライブ ペアのデータの保全性が損なわれたかどうかです。

通常は、モニタリングソフトウェアが RAID の障害を検出し、障害はドライブ障害またはドライブの冗長性損失として報告されます。障害のあるドライブの再構築手順は次のとおりです。この手順は、すべての Cisco MCS モデル 7825、7835、7845 サーバに適用されます。

まず、CLI の `show hardware` コマンドを使用して RAID アレイのステータスをチェックし、ステータスのフィールドに「OK」または「Okay」と表示されるかを確認します。次に例を示します。

```
admin:show hardware
HW Platform       : 7835I
Processors        : 1
Type              : Intel(R) Xeon(TM) CPU 3.06GHz
CPU Speed         : 3066
Memory            : 2048 MBytes
Object ID         : 1.3.6.1.4.1.9.1.585
OS Version        : UCOS 2.0.1.0-37
RAID Details      :
Found 1 IBM ServeRAID controller(s).
Read configuration has been initiated for controller 1...
-----
Logical drive information
-----
Logical drive number 1
  Status of logical drive      : Okay (OKAY)
  RAID level                   : 1
  Size (in MB)                 : 70006
  Write cache status          : Temporary write through (TWT)
  Number of chunks             : 2
  Stripe-unit size             : 8 KB
  Access blocked               : No
  Part of array                : A
Array A stripe order (Channel/SCSI ID) : 1,0 1,1 Command completed successfully.
```

RAID アレイのステータスのフィールドが「OK」または「Okay」でない(「Degraded」や「Critical」など)の場合は、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** コンソールにログインし、CLI コマンド `utils system shutdown` を入力します。
  - ステップ 2** サーバの電源を切ります (電源ボタンを押して、電源をオフにします)。
  - ステップ 3** 障害のあるディスク ドライブを取り出します。

**ステップ4** サーバの電源を入れます（電源ボタンを押して、電源をオンにします）。

IBM サーバ（7825I、7835I、7845I など）の場合は、システムのリブート時に次のメッセージが表示されます。

```
1:ServeRAID-5i Slot 2, Logical drv=1, Firmware=7.12.07, Status=Fail
1 Drive(s) not responding or found at new location(s)
Press F2 Detailed information
      F4 Retry the command
      F5 Change the configuration and set the drive(s) defunct
      F10 Continue without changing the configuration
```

**ステップ5** F5 キーを押します。

**ステップ6** コンソール ウィンドウにログイン プロンプトが表示されたら、ログインし、CLI の **show hardware** コマンドを使用して、RAID アレイのステータスのフィールドをチェックします。「Degraded」または「Critical」と表示されます。

**ステップ7** 障害のあったディスクを元のスロットに挿入します。必ず正しい位置にロックしてください。

**ステップ8** CLI の **show hardware** コマンドを使用して、RAID アレイのステータスをチェックします。ステータスのフィールドには「Rebuilding」または「Critical」と表示されます。

**ステップ9** 1 時間後に、CLI の **show hardware** コマンドを使用して、RAID アレイのステータスを再チェックし、ステータスのフィールドに「OK」または「Okay」と表示されるかどうかを確認します。

ステータスが「OK」または「Okay」でない場合は、物理ドライブを交換しなければならない可能性があります。

---





## 設定

---

IP 設定、ホスト設定、およびネットワーク タイム プロトコル (NTP) 設定の表示と設定をするには、設定オプションを使用します。

### IP 設定

[ IP 設定 ] オプションを使用すると、イーサネット接続の IP とポートの設定を表示および変更でき、後続ノードではパブリッシュの IP アドレスを設定できます。

### イーサネットの設定

[ IP 設定 ] ウィンドウでは、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) がアクティブであるかどうかを示されます。また、ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスのほかに、関連するイーサネットの IP アドレスも表示されます。

すべてのイーサネット設定は Eth0 のみに適用されます。Eth1 に対する設定は一切できません。Eth0 の最大伝送ユニット (MTU) は、デフォルトで 1500 に設定されています。

IP 設定を表示または変更するには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ 設定 ] > [ IP ] > [ イーサネット ] を選択します。

[ イーサネットの設定 (Ethernet Configuration) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** イーサネットの設定を変更するには、該当するフィールドに新しい値を入力します。[ イーサネットの設定 (Ethernet Configuration) ] ウィンドウの各フィールドの説明については、表 4-1 を参照してください。



(注) DHCP を有効にすると、ポートとゲートウェイの設定は無効になり変更できなくなります。

**ステップ 3** 変更内容を保存するには、[ 保存 ] をクリックします。

---

表 4-1 イーサネットの設定のフィールドと説明

フィールド	説明
DHCP	DHCP が有効か無効かを示します。
ポート情報 (Port Information) の IP アドレス (IP Address)	システムの IP アドレスを表示します。
サブネットマスク (Subnet Mask)	IP サブネット マスクのアドレスを表示します。
ゲートウェイ (Gateway) IP アドレス (IP Address)	ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表示します。

## パブリッシャの設定

後続ノードまたはサブスクリバ ノードでは、最初のノードまたはノードのパブリッシャの IP アドレスを表示または変更できます。

パブリッシャの IP 設定を表示または変更するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 ] ウィンドウで、[ 設定 ] > [ IP ] > [ パブリッシャ ] を選択します。

[ パブリッシャの設定 (Publisher Settings) ] ウィンドウが表示されます。



(注) パブリッシャの IP アドレスは、クラスタの後続ノードでのみ表示および変更が可能で、パブリッシャ自体ではできません。

- ステップ 2** 新しいパブリッシャ IP アドレスを入力します。

- ステップ 3** [ 保存 ] をクリックします。

## Cisco Unified Communications Manager 後続ノードでの IP アドレスの変更

後続ノードがオフラインのときに、最初の Cisco Unified Communications Manager ノードの IP アドレスを変更すると、後続ノードで Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインできなくなることがあります。このような状況が発生した場合は、次の手順を実行します。

- ステップ 1** 次の IP アドレスを使用して、後続ノードからオペレーティングシステムの管理に直接ログインします。

`http://server-name/iptplatform`

ここで `server-name` には後続ノードのホスト名または IP アドレスを指定します。

- ステップ 2** 管理者ユーザ名とパスワードを入力し、[ 送信 ] をクリックします。



**ステップ 3** [設定]>[IP]>[パブリッシャ]を選択します。

**ステップ 4** パブリッシャの新しいIPアドレスを入力し、[保存]をクリックします。

**ステップ 5** 後続ノードを再起動します。

## NTP サーバ

外部 NTP サーバが階層 9 以上 (1 ~ 9) であることを確認します。外部 NTP サーバを追加、削除、または変更するには、次の手順を実行します。



(注) 最初のノードまたはパブリッシャでは、NTP サーバの設定のみできます。

### 手順

**ステップ 1** [Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理] ウィンドウで、[設定]>[NTP サーバ]を選択します。

[NTP サーバの設定 (NTP Server Settings)] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** NTP サーバの追加、削除、または変更ができます。

- NTP サーバを削除するには、削除するサーバの前にあるチェックボックスをオンにし、[削除]をクリックします。
- NTP サーバを追加するには、[追加]をクリックし、ホスト名または IP アドレスを入力し、[保存]をクリックします。
- NTP サーバを変更するには、IP アドレスをクリックし、ホスト名または IP アドレスを変更し、[保存]をクリックします。



(注) NTP サーバに対する変更が完了するまでに、最大で 5 分かかることがあります。NTP サーバに何らかの変更を行った場合は、必ずウィンドウをリフレッシュし、正しいステータスを表示するようにしてください。

**ステップ 3** [NTP サーバの設定 (NTP Server Settings)] ウィンドウをリフレッシュして正しいステータスを表示するには、[設定]>[NTP サーバ]を選択します。



(注) NTP サーバを削除、変更、または追加したら、クラスタ内の他のすべてのノードを再起動し、変更を有効にする必要があります。

## SMTP 設定

[ SMTP 設定 ] ウィンドウでは、SMTP ホスト名を表示または設定でき、SMTP ホストがアクティブかどうかが表示されます。



### ヒント

システムからメールが送信されるようにするには、SMTP ホストを設定する必要があります。

[ SMTP 設定 ] にアクセスするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 ] ウィンドウで、[ 設定 ] > [ SMTP ] を選択します。

[ SMTP 設定 (SMTP Settings) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** SMTP のホスト名または IP アドレスを入力または変更します。

**ステップ 3** [ 保存 ] をクリックします。

## 時間の設定

時間を手動で設定するには、次の手順を実行します。



### (注)

サーバの時間を手動で設定する前に、設定済みの NTP サーバを削除する必要があります。詳細については、「[NTP サーバ](#)」を参照してください。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理 ] ウィンドウで、[ 設定 ] > [ 時間 ] を選択します。

**ステップ 2** システムの日時を入力します。

**ステップ 3** [ 保存 ] をクリックします。



## システムの再起動

---

この項では、次の再起動オプションを使用する手順について説明します。

- [バージョンを切り替えて再起動](#)
- [現在のバージョンの再起動](#)
- [システムのシャットダウン](#)

### バージョンを切り替えて再起動

このオプションは、新しいソフトウェアバージョンにアップグレードする場合や、前のソフトウェアバージョンにフォールバックする必要がある場合にも使用できます。アクティブなディスクパーティション上で実行されているシステムをシャットダウンし、その後、アクティブでないパーティション上のソフトウェアバージョンを使用してシステムを自動的に再起動するには、次の手順を実行します。

**注意**

---

この手順を実行すると、システムが再起動し、一時的に使用できなくなります。

---

**手順**

---

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ 設定 ] > [ バージョン ] を選択します。

[ バージョン設定 ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、アクティブなパーティション上とアクティブでないパーティション上のソフトウェアバージョンが表示されます。

**ステップ 2** バージョンを切り替えて再起動するには、[ バージョンの切り替え ] をクリックします。操作を中止するには、[ キャンセル ] をクリックします。

[ バージョンの切り替え ] をクリックした場合、システムが再起動し、現在アクティブでないパーティションがアクティブになります。

---

## 現在のバージョンの再起動

バージョンを切り替えずに現在のパーティション上のシステムを再起動するには、次の手順を実行します。

**注意**

この手順を実行すると、システムが再起動し、一時的に使用できなくなります。

**手順**

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ 設定 ] > [ バージョン ] を選択します。

[ バージョン設定 ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、アクティブなパーティション上とアクティブでないパーティション上のソフトウェア バージョンが表示されます。

**ステップ 2** システムを再起動する場合は[ 再起動 ]を、操作を中止する場合は[ キャンセル ]をクリックします。

[ 再起動 ] をクリックした場合、バージョンを切り替えずに現在のパーティションでシステムが再起動されます。

## システムのシャットダウン

**注意**

サーバの電源ボタンを押すと、ただちにシステムがシャットダウンされます。

システムをシャットダウンするには、次の手順を実行します。

**注意**

この手順を実行すると、システムがシャットダウンされます。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ 設定 ] > [ バージョン ] を選択します。

[ バージョン設定 ] ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、アクティブなパーティション上とアクティブでないパーティション上のソフトウェア バージョンが表示されます。

**ステップ 2** システムをシャットダウンする場合は [ シャットダウン ] を、操作を中止する場合は [ キャンセル ] をクリックします。

[ シャットダウン ] をクリックすると、すべてのプロセスが停止し、システムがシャットダウンされます。



**(注)** ハードウェアの電源は自動的に切れません。

■ システムのシャットダウン



## セキュリティ

---

この章では証明書の管理と IPSec の管理について説明し、次の作業を実行する手順を説明します。

- [Internet Explorer のセキュリティ オプションの設定](#)
- [証明書と証明書信頼リストの管理](#)
- [IPSEC の管理](#)

### Internet Explorer のセキュリティ オプションの設定

サーバから証明書をダウンロードするには、Internet Explorer のセキュリティ設定が次のように設定されていることを確認します。

#### 手順

---

- ステップ 1** Internet Explorer を起動します。
  - ステップ 2** [ ツール ] > [ インターネット オプション ] を選択します。
  - ステップ 3** [ 詳細設定 ] タブをクリックします。
  - ステップ 4** [ 詳細設定 ] タブの [ セキュリティ ] をスクロール ダウンします。
  - ステップ 5** 必要に応じて、[ 暗号化されたページをディスクに保存しない ] チェックボックスをオフにします。
  - ステップ 6** [ OK ] をクリックします。
-

## 証明書と証明書信頼リストの管理

次の各項では、[ 証明書の管理 ] メニューから実行できる機能を説明します。

- [証明書の表示 \( P.6-2 \)](#)
- [証明書または CTL のダウンロード \( P.6-2 \)](#)
- [証明書の削除と再作成 \( P.6-3 \)](#)
- [証明書または証明書信頼リストのアップロード \( P.6-4 \)](#)
- [サードパーティの CA 証明書の使用法 \( P.6-6 \)](#)



(注)

[ セキュリティ ] メニューの項目にアクセスするには、管理者パスワードを使用して Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページに再ログインする必要があります。

### 証明書の表示

既存の証明書を表示するには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** [ セキュリティ ] > [ 証明書の管理 ] を選択します。

[ 証明書の一覧 ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ 検索 ] を使用すると、証明書のリストをフィルタリングできます。

**ステップ 3** 証明書または信頼ストアの詳細を表示するには、そのファイル名をクリックします。

[ 証明書の設定 ] ウィンドウに該当の証明書の情報が表示されます。

**ステップ 4** [ 証明書の一覧 ] ウィンドウに戻るには、[ 関連リンク ] リストの [ 検索 / リストに戻る ] を選択し、[ 移動 ] をクリックします。

### 証明書または CTL のダウンロード

証明書または CTL を Cisco Unified Communications オペレーティングシステムから PC にダウンロードするには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** [ セキュリティ ] > [ 証明書の管理 ] を選択します。

[ 証明書の一覧 ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ 検索 ] を使用すると、証明書のリストをフィルタリングできます。



**ステップ3** 証明書または CTL のファイル名をクリックします。

[ 証明書の設定 ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ4** [ ダウンロード ] をクリックします。

**ステップ5** [ ファイルのダウンロード ] ダイアログボックスで、[ 保存 ] をクリックします。

## 証明書の削除と再作成

次の各項では、証明書の削除と再作成について説明します。

- [証明書の削除 \( P.6-3 \)](#)
- [証明書の再作成 \( P.6-3 \)](#)

### 証明書の削除

信頼できる証明書を削除するには、次の手順を実行します。



#### 注意

証明書を削除すると、システムの動作に影響する場合があります。

#### 手順

**ステップ1** [ セキュリティ ] > [ 証明書の管理 ] を選択します。

[ 証明書の一覧 ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ2** [ 検索 ] を使用すると、証明書のリストをフィルタリングできます。

**ステップ3** 証明書または CTL のファイル名をクリックします。

[ 証明書の設定 ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ4** [ 削除 ] をクリックします。

### 証明書の再作成

証明書を再作成するには、次の手順を実行します。



#### 注意

証明書を再作成すると、システムの動作に影響する場合があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** [セキュリティ] > [証明書の管理] を選択します。
- [証明書の一覧] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規作成] をクリックします。
- [証明書の作成] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [証明書の名前] リストから、証明書の名前を選択します。
- ステップ 4** [新規作成] をクリックします。
- 

## 証明書または証明書信頼リストのアップロード



### 注意

新しい証明書ファイルまたは証明書信頼リスト (CTL) ファイルをアップロードすると、システムの動作に影響する場合があります。



### (注)

システムが信頼証明書を他のクラスタ ノードに自動的に配信することはありません。複数のノードで同じ証明書が必要な場合は、証明書を各ノードに個々にアップロードする必要があります。

次の各項では、CA ルート証明書、アプリケーション証明書、または CTL ファイルをサーバにアップロードする方法について説明します。

- [証明書のアップロード \(P.6-4\)](#)
- [証明書信頼リストのアップロード \(P.6-5\)](#)
- [ディレクトリの信頼証明書のアップロード \(P.6-5\)](#)

## 証明書のアップロード

### 手順

- 
- ステップ 1** [セキュリティ] > [証明書の管理] を選択します。
- [証明書の一覧] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [証明書のアップロード] をクリックします。
- [証明書のアップロード] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [証明書の名前] リストから、証明書の名前を選択します。

- ステップ 4** サードパーティの CA で発行されたアプリケーション証明書をアップロードする場合は、CA ルート証明書の名前を[ **ルート証明書** ]テキストボックスに入力します。CA ルート証明書をアップロードする場合は、このテキストボックスを空白のままにします。
- ステップ 5** 次のいずれかの手順で、アップロードするファイルを選択します。
- [ **ファイルのアップロード** ]テキストボックスに、ファイルのパスを入力します。
  - [ **参照** ] ボタンをクリックしてファイルを選択し、[ **開く** ] をクリックします。
- ステップ 6** ファイルをサーバにアップロードするには、[ **ファイルのアップロード** ] ボタンをクリックします。
- 

## 証明書信頼リストのアップロード

### 手順

- ステップ 1** [ **セキュリティ** ] > [ **証明書の管理** ] を選択します。
- [ **証明書の一覧** ] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ **CTL のアップロード** ] をクリックします。
- [ **証明書信頼リストのアップロード** ] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [ **証明書の名前** ] リストから、証明書の名前を選択します。
- ステップ 4** サードパーティの CA で発行されたアプリケーション証明書をアップロードする場合は、CA ルート証明書の名前を[ **ルート証明書** ]テキストボックスに入力します。CA ルート証明書をアップロードする場合は、このテキストボックスを空白のままにします。
- ステップ 5** 次のいずれかの手順で、アップロードするファイルを選択します。
- [ **ファイルのアップロード** ]テキストボックスに、ファイルのパスを入力します。
  - [ **参照** ] ボタンをクリックしてファイルを選択し、[ **開く** ] をクリックします。
- ステップ 6** ファイルをサーバにアップロードするには、[ **ファイルのアップロード** ] ボタンをクリックします。
- 

## ディレクトリの信頼証明書のアップロード

### 手順

- ステップ 1** [ **セキュリティ** ] > [ **証明書の管理** ] を選択します。
- [ **証明書の一覧** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [ CTL のアップロード ] をクリックします。

[ 証明書信頼リストのアップロード ] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 3** [ 証明書の名前 ] リストから、[ directory-trust ] を選択します。

**ステップ 4** アップロードするファイルを [ ファイルのアップロード ] フィールドに入力します。

**ステップ 5** ファイルをアップロードするには、[ ファイルのアップロード ] ボタンをクリックします。

**ステップ 6** Cisco Unified Serviceability にログインします。

**ステップ 7** [ Tools ] > [ Control Center - Feature Services ] を選択します。

**ステップ 8** Cisco Dirsync サービスを再起動します。

**ステップ 9** Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの CLI に管理者としてログインします。

**ステップ 10** Tomcat サービスを再起動するには、コマンド `utils service restart Cisco Tomcat` を入力します。

**ステップ 11** サービスの再起動後、SSL のディレクトリ契約を追加することができます。

## サードパーティの CA 証明書の使用法

Cisco Unified Communications オペレーティングシステムは、サードパーティの認証局 (CA) が PKCS # 10 証明書署名要求 (CSR) によって発行した証明書をサポートしています。次の表に、このプロセスの概要および参考となる文書やマニュアルを示します。

	作業	参照先
<b>ステップ 1</b>	サーバに CSR を作成する。	P.6-7 の「証明書署名要求の作成」を参照してください。
<b>ステップ 2</b>	CSR を PC にダウンロードする。	P.6-7 の「証明書署名要求のダウンロード」を参照してください。
<b>ステップ 3</b>	CSR を使用して、CA からアプリケーション証明書を取得する。	アプリケーション証明書に関する情報は、CA から入手してください。その他の注意事項については、P.6-8 の「サードパーティの CA 証明書の取得」を参照してください。
<b>ステップ 4</b>	CA ルート証明書を取得する。	ルート証明書に関する情報は、CA から入手してください。その他の注意事項については、P.6-8 の「サードパーティの CA 証明書の取得」を参照してください。
<b>ステップ 5</b>	CA ルート証明書をサーバにアップロードする。	P.6-4 の「証明書のアップロード」を参照してください。
<b>ステップ 6</b>	アプリケーション証明書をサーバにアップロードする。	P.6-4 の「証明書のアップロード」を参照してください。
<b>ステップ 7</b>	CAPF または Cisco Unified Communications Manager の証明書を更新した場合は、新しい CTL ファイルを作成する。	『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。

	作業	参照先
ステップ 8	新しい証明書に影響するサービスを再起動する。	すべての証明書タイプで、対応するサービスを再起動します（たとえば、Tomcat の証明書を更新した場合は Tomcat サービスを再起動します）。さらに、CAPF または Cisco Unified Communications Manager の証明書を更新した場合は、TFTP サービスも再起動します。  サービスの再起動の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

## 証明書署名要求の作成

証明書署名要求（CSR）を作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [セキュリティ] > [証明書の管理] を選択します。  
[証明書の一覧] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [CSR の作成] をクリックします。  
[証明書署名要求の作成] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [証明書の名前] リストから、証明書の名前を選択します。
- ステップ 4** [CSR の作成] をクリックします。
- 

## 証明書署名要求のダウンロード

証明書署名要求をダウンロードするには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [セキュリティ] > [証明書の管理] を選択します。  
[証明書の一覧] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [CSR のダウンロード] をクリックします。  
[証明書署名要求のダウンロード] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [証明書の名前] リストから、証明書の名前を選択します。
- ステップ 4** [CSR のダウンロード] をクリックします。
- ステップ 5** [ファイルのダウンロード] ダイアログボックスで、[保存] をクリックします。
-

## サードパーティの CA 証明書の取得

サードパーティの CA が発行するアプリケーション証明書を使用するには、署名付きのアプリケーション証明書と CA ルート証明書の両方を CA から取得する必要があります。これらの証明書に関する情報は、CA から入手してください。入手の手順は、CA によって異なります。

CAPF および Cisco Unified Communications Manager CSR には、CA へのアプリケーション証明書要求に含める必要のある拡張情報が含まれています。CA が拡張要求メカニズムをサポートしていない場合は、CSR 作成プロセスの最後のページに表示される X.509 拡張を有効にする必要があります。

Cisco Unified Communications オペレーティング システムでは、証明書は DER および PEM 符号化フォーマットで、CSR は PEM 符号化フォーマットで作成されます。また、DER および DER 符号化フォーマットの証明書を受け入れます。

シスコは、Microsoft、Keon、および Verisign CA から取得されたサードパーティの証明書を検証します。それ以外の CA の証明書でも機能する場合がありますが、検証は行われません。

## 証明書の有効期限日の監視

証明書の有効期限日が近づいたときに、システムから自動的に通知が送信されることはありません。証明書有効期限モニタの表示と設定をするには、次の手順を実行します。

### 手順


**ステップ 1** 現在の証明書有効期限モニタの設定を表示するには、[ **セキュリティ** ] > [ **証明書モニタ** ] を選択します。

[ **証明書モニタ** ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 必要な設定情報を入力します。証明書モニタの有効期限のフィールドの説明については、[表 6-1](#) を参照してください。

**ステップ 3** 変更内容を保存するには、[ **保存** ] をクリックします。

表 6-1 証明書モニタのフィールド説明

フィールド	説明
通知開始時期 (Notification Start Time)	証明書が無効になる何日前に通知を送信してもらうかを入力します。
通知の頻度 (Notification Frequency)	通知の頻度を時間または日単位で入力します。
メール通知の有効化 (Enable E-mail notification)	メール通知を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
メール ID(E-mail IDs)	通知を送信するメール アドレスを入力します。
	 <p><b>(注)</b> システムから通知を送信するには、SMTP ホストを設定する必要があります。</p>

## IPSEC の管理

次の各項では、IPSec メニューで実行できる機能を説明します。

- [新しい IPSec ポリシーの設定 \(P.6-9\)](#)
- [既存の IPSec ポリシーの管理 \(P.6-11\)](#)



(注) IPSec は、インストール時にクラスタ内のノード間で自動的に設定されません。

### 新しい IPSec ポリシーの設定

新しい IPSec ポリシーと割り当てを設定するには、次の手順を実行します。



(注) システムのアップグレード中、IPSec ポリシーに何らかの変更を行ってもその変更は無効になります。アップグレード中は IPSec ポリシーを作成したり変更したりしないでください。



注意 IPSec はシステムのパフォーマンスに影響します (特に暗号化した場合)。

#### 手順

**ステップ 1** [セキュリティ] > [IPSEC 設定] を選択します。

[IPSEC ポリシーの一覧] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [新規追加] をクリックします。

[IPSEC ポリシーの設定] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [IPSEC ポリシーの設定] ウィンドウに適切な情報を入力します。このウィンドウの各フィールドの説明については、[表 6-2](#) を参照してください。

**ステップ 4** 新しい IPSec ポリシーを設定するには、[保存] をクリックします。

表 6-2 IPSEC のポリシーと割り当ての設定のフィールドと説明

フィールド	説明
ポリシー名 (Policy Name)	IPSec ポリシーの名前を指定します。名前には、文字、数字、ハイフンのみを使用できます。
アソシエーション名 (Association Name)	各 IPSec 割り当てに付けられている割り当て名を指定します。名前には、文字、数字、ハイフンのみを使用できます。
認証方式 (Authentication Method)	認証方式を指定します。

表 6-2 IPSEC のポリシーと割り当ての設定のフィールドと説明 (続き)

フィールド	説明
共有キー (Preshared Key)	[ 認証方式 (Authentication Method) ] フィールドで [ 共有キー ] を選択した場合は、共有キーを指定します。
ピアタイプ (Peer Type)	ピアのタイプが同じか異なるかを指定します。
接続先アドレス (Destination Address)	着信先の IP アドレスまたは FQDN を指定します。
接続先ポート (Destination Port)	着信先のポート番号を指定します。
ソース アドレス (Source Address)	ソース側の IP アドレスまたは FQDN を指定します。
ソース ポート (Source Port)	ソース側のポート番号を指定します。
モード (Mode)	トンネルまたは転送モードを指定します。
リモート ポート (Remote Port)	着信先で使用されるポート番号を指定します。
プロトコル (Protocol)	次のプロトコルまたは Any を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• TCP</li> <li>• UDP</li> <li>• Any</li> </ul>
暗号化アルゴリズム (Encryption Algorithm)	ドロップダウン リストから、暗号化アルゴリズムを選択します。選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DES</li> <li>• 3DES</li> </ul>
ハッシュ アルゴリズム (Hash Algorithm)	ハッシュ アルゴリズムを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SHA1 : フェーズ 1 IKE ネゴシエーションで使用されるハッシュ アルゴリズム</li> <li>• MD5 : フェーズ 1 IKE ネゴシエーションで使用されるハッシュ アルゴリズム</li> </ul>
ESP アルゴリズム (ESP Algorithm)	ドロップダウン リストから、ESP アルゴリズムを選択します。選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• NULL_ENC</li> <li>• DES</li> <li>• 3DES</li> <li>• BLOWFISH</li> <li>• RIJNDAEL</li> </ul>
フェーズ 1 のライフタイム (Phase One Life Time)	フェーズ 1 の IKE ネゴシエーションのライフタイムを秒単位で指定します。
フェーズ 1 の DH(Phase One DH)	ドロップダウン リストから、フェーズ 1 の DH 値を選択します。選択肢は 2、1、5、14、16、17、および 18 です。
フェーズ 2 のライフタイム (Phase Two Life Time)	フェーズ 2 の IKE ネゴシエーションのライフタイムを秒単位で指定します。
フェーズ 2 の DH(Phase Two DH)	ドロップダウン リストから、フェーズ 2 の DH 値を選択します。選択肢は 2、1、5、14、16、17、および 18 です。
ポリシーの有効化 (Enable Policy)	ポリシーを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。



## 既存の IPsec ポリシーの管理

既存の IPsec ポリシーを表示、有効化 / 無効化、または削除するには、次の手順を実行します。



(注)

システムのアップグレード中、IPsec ポリシーに何らかの変更を行ってもその変更は無効になります。アップグレード中は IPsec ポリシーを作成したり変更したりしないでください。



注意

IPsec はシステムのパフォーマンスに影響します（特に暗号化した場合）。



注意

既存の IPsec ポリシーを変更すると、システムの正常な動作に影響する場合があります。

### 手順

**ステップ 1** [セキュリティ] > [IPSEC 設定] を選択します。



(注) [セキュリティ] メニューの項目にアクセスするには、管理者パスワードを使用して Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページに再ログインする必要があります。

[IPSEC ポリシーの一覧] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ポリシーを表示、有効化、または無効化するには、次の手順を実行します。

- a. ポリシー名をクリックします。  
[IPSEC ポリシーの設定] ウィンドウが表示されます。
- b. ポリシーを有効化または無効化するには、[ポリシーの有効化] チェックボックスを使用します。
- c. [保存] をクリックします。

**ステップ 3** 1 つまたは複数のポリシーを削除するには、次の手順を実行します。

- a. 削除するポリシーの横にあるチェックボックスをオンにします。  
[すべてを選択] をクリックするとすべてのポリシーを選択でき、[すべてをクリア] を選択するとすべてのチェックボックスをクリアできます。
- b. [選択項目の削除] をクリックします。





## ソフトウェア アップグレード

---

[ソフトウェアアップグレード]オプションを使用すると、次のようなインストールとアップグレードを実行できます。

- インストール / アップグレード：アプリケーション ソフトウェアのアップグレード、Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラとダイヤル プランのインストール、および、デバイス パック、電話機のファームウェア ロード、およびその他の COP ファイルのアップロードとインストールをする場合に、このオプションを使用します。
- TFTP ファイル管理：電話機が使用するさまざまなデバイス ファイルを TFTP サーバにアップロードする場合に、このオプションを使用します。アップロード可能な TFTP サーバファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および電話機の背景画像などがあります。

## ソフトウェアのアップグレードとインストール

このバージョンの Cisco Unified Communications Manager では、コンピュータの運用中にサーバにアップグレードソフトウェアをインストールすることができます。システムには、2つのパーティションがあります。1つはアクティブな、もう1つはアクティブでない、ブート可能パーティションです。システムは、アクティブになっているパーティション上で全体が起動し、動作します。

アップグレードソフトウェアをインストールする場合は、アクティブでないパーティションにインストールします。システムは、ソフトウェアのインストール中も正常に機能し続けます。準備が完了したら、アクティブでないパーティションをアクティブにし、新しいアップグレードソフトウェアでシステムをリブートします。システムが再起動すると、その時点までアクティブだったパーティションはアクティブでないパーティションとして認識されます。その時点までのソフトウェアは、次のアップグレードまでアクティブでないパーティション内に維持されます。設定情報は、アクティブなパーティションにあるアップグレードしたバージョンの方に自動的に移行されます。

何らかの理由でアップグレードを取り消す場合は、システムを再起動し、前のバージョンのソフトウェアがインストールされているアクティブでないパーティションに切り替えることができます。ただし、この場合、ソフトウェアのアップグレード以降に変更した設定情報は失われます。



(注)

データベースへの変更は、アクティブなパーティションに対してのみ実行できます。アクティブでないパーティションのデータベースは更新されません。アップグレード後にデータベースに変更を加えた場合は、パーティションを切り替えてから同じ変更を繰り返す必要があります。

パッチまたはアップグレードバージョンは、DVD (ローカルソース) または Cisco Unified Communications Manager サーバがアクセス可能なネットワーク ロケーション (リモートソース) からインストールできます。

アップグレードパッチは、最初のノードにインストールしてからサブスクリバノードにインストールする必要があります。アップグレードパッチは、複数のサブスクリバサーバに同時にインストールできます。新バージョンをアクティブにする準備が整ったら、最初のノードをアクティブにし、それからその他のすべてのノードをアクティブにする必要があります。



(注)

アップグレードプロセスを開始する前に、必ずシステムデータのバックアップを行ってください。詳細については、『*Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

### Cisco Unified Communications Manager Release 6.0(1) へのアップグレード

Cisco Unified Communications Manager バージョン 6.0(1) 以降、CAPF では証明書とキーの管理に Certificate Manager Infrastructure が使用されています。このため、バージョン 6.0(1) 以上にアップグレードすると、CAPF のキーと証明書は自動的に再作成されます。その後 CTL Client アプリケーションを再実行し、CTL ファイルをアップグレードする必要があります。Cisco Unified Communications Manager での CAPF の使用方法については、『*Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド*』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager 6.0(1) にアップグレードする前に、まずこのリリースのライセンスを取得する必要があります。アップグレード後に新しいライセンスをインポートしてからシステムを有効にする必要があります。ライセンスおよびライセンス取得の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

## アップグレード ファイルの取得

アップグレード プロセスを開始する前に、Cisco.com から適切なアップグレード ファイルを取得する必要があります。

Cisco Unified Communications Manager Release 5.x からのアップグレードの場合、アップグレード ファイル名は次の形式になります。

```
cisco-ipt-k9-patchX.X.X-X.tar.gz.sgn
```

X.X.X-X は、リリースとビルド番号を表します。



(注) システムが有効なファイルだと認識できなくなるため、パッチ ファイルの名前は変更しないでください。



(注) ファイルを unzip または untar しないでください。unzip または untar した場合、アップグレード ファイルをシステムが読み取れないおそれがあります。

Cisco Unified Communications Manager Release 6.x からのアップグレードの場合は、アップグレード ファイルの拡張子は sgn.iso になります。

インストール プロセス中も、アップグレード ファイルにはローカル ディスク (CD または DVD) からリモートの FTP または TFTP サーバからアクセスできます。

## ローカル ソースからのアップグレード

ローカル ディスク ドライブに挿入された CD または DVD からソフトウェアをインストールし、アップグレード プロセスを開始できます。

CD または DVD からソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco.com からダウンロードしたアップグレード ファイルを使用して、アップグレード ディスクを作成します。

- tar.gz.sgn 拡張子を持つアップグレード ファイルを使用する場合は、アップグレード ファイルを書き込み可能な DVD にコピーします。
- sgn.iso 拡張子を持つアップグレード ファイルを使用する場合は、書き込み可能な DVD 上に、アップグレード ファイルから ISO イメージを作成する必要があります。DVD に .iso ファイルをコピーしただけでは、正しく動作しません。

**ステップ 2** 新しい DVD を、アップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。

**ステップ 3** Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページにログインします。

**ステップ 4** [ソフトウェアアップグレード]>[インストール/アップグレード]を選択します。

[ソフトウェアのインストール/アップグレード]ウィンドウが表示されます。

**ステップ 5** [ソース]リストから、[DVD/CD]を選択します。

**ステップ 6** CDまたはDVD上のパッチファイルのパスを、[ディレクトリ]フィールドに入力します。

ファイルがルートディレクトリにある場合、またはDVD上にISOイメージを作成した場合は、[ディレクトリ]フィールドにスラッシュ(/)を入力します。

**ステップ 7** アップグレードプロセスを続行するには、[次へ]をクリックします。

**ステップ 8** インストールするアップグレードバージョンを選択し、[次へ]をクリックします。

**ステップ 9** 次のウィンドウで、ダウンロードの進行状況を監視します。

tar.gz.sg 拡張子を持つアップグレードファイルを使用している場合は、ダウンロードが完了すると次のウィンドウにチェックサムの値が表示されます。ISOイメージのDVDを作成した場合は、チェックサムは表示されません。

**ステップ 10** このチェックサムの値と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。



#### 注意

アップグレードファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら2つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレードファイルをCisco.comからダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

**ステップ 11** [次へ]をクリックします。

**ステップ 12** アップグレードのインストール後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするには、[アップグレードされたパーティションをリブート]を選択します。システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

**ステップ 13** アップグレードのインストール後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリブートするには、次の手順を実行します。

a. [アップグレード後にリブートしない]を選択します。

b. [次へ]をクリックします。

アップグレードのステータスウィンドウにアップグレードログが表示されます。

c. インストールが完了したら、[終了]をクリックします。

d. システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[設定]>[バージョン]を選択し、[バージョンの切り替え]をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

## リモートソースからのアップグレード

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからソフトウェアをアップグレードするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** アップグレードするサーバがアクセスできる FTP または SFTP サーバにアップグレード ファイルを置きます。

**ステップ 2** Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページにログインします。

**ステップ 3** [ソフトウェアアップグレード] > [インストール/アップグレード] を選択します

[ソフトウェアのインストール/アップグレード] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** [ソース] リストから、[リモートファイルシステム] を選択します。

**ステップ 5** パッチ ファイルを格納したリモート システム上のディレクトリのパスを、[ディレクトリ] フィールドに入力します。

アップグレード ファイルが Linux または Unix サーバ上にある場合は、ディレクトリ パスの先頭にスラッシュを入力する必要があります。たとえば、アップグレード ファイルが patches ディレクトリにある場合は、/patches と入力する必要があります。アップグレード ファイルが Windows サーバ上にある場合は、システム管理者が適切なディレクトリ パスであることを確認します。

- Cisco Unified Communications Manager Release 5.x からのアップグレードの場合は、アップグレード ファイルの拡張子は tar.gz.sgn になります。
- Cisco Unified Communications Manager Release 6.x からのアップグレードの場合は、アップグレード ファイルの拡張子は sgn.iso になります。

**ステップ 6** [サーバ] フィールドに、サーバ名または IP アドレスを入力します。

**ステップ 7** [ユーザ名] フィールドに、リモート サーバでのユーザ名を入力します。

**ステップ 8** [ユーザパスワード] フィールドに、リモート サーバでのパスワードを入力します。

**ステップ 9** [転送プロトコル] フィールドで、転送プロトコルを選択します。

**ステップ 10** アップグレード プロセスを続行するには、[次へ] をクリックします。

**ステップ 11** インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ] をクリックします。

**ステップ 12** 次のウィンドウで、ダウンロードの進行状況を監視します。

tar.gz.sg 拡張子を持つアップグレード ファイルを使用している場合は、ダウンロードが完了すると次のウィンドウにチェックサムが表示されます。ISO イメージの DVD を作成した場合は、チェックサムは表示されません。

**ステップ 13** ダウンロードが完了したら、このチェックサムの値 (表示されている場合) と、Cisco.com に表示されているダウンロードしたファイルのチェックサムを照合します。

**注意**

アップグレード ファイルの信頼性と安全性が保証されるためには、これら 2 つのチェックサム値が一致している必要があります。チェックサムの値が一致しない場合は、最新版のアップグレード ファイルを Cisco.com からダウンロードし、もう一度アップグレードを実行してください。

**ステップ 14** [次へ] をクリックします。

**ステップ 15** アップグレードのインストール後、アップグレードされたパーティションを自動的にリブートするには、[アップグレードされたパーティションをリブート] を選択します。システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

**ステップ 16** アップグレードのインストール後、アップグレードされたパーティションを後日手動でリブートするには、次の手順を実行します。

- a. [アップグレード後にリブートしない] を選択します。
- b. [次へ] をクリックします。  
アップグレードのステータスウィンドウにアップグレード ログが表示されます。
- c. インストールが完了したら、[終了] をクリックします。
- d. システムを再起動してアップグレードをアクティブにするには、[設定] > [バージョン] を選択し、[バージョンの切り替え] をクリックします。

システムが再起動され、アップグレードされたソフトウェアが実行されます。

## アップグレードの途中停止

アップグレード ソフトウェアのインストール中に、アップグレードが途中停止したように見える場合があります。アップグレード ログには新しいログ メッセージが表示されなくなります。アップグレードが途中停止した場合は、アップグレードをキャンセルし、I/O スロットリングを無効にして、アップグレード手順を初めからやり直す必要があります。アップグレードが成功で完了した場合は、I/O スロットリングをあらためて有効にする必要はありません。

I/O スロットリングを無効にするには、CLI コマンド `utils iothrottle disable` を入力します。

I/O スロットリングのステータスを表示するには、CLI コマンド `utils iothrottle status` を入力します。

I/O スロットリングを有効にするには、CLI コマンド `utils iothrottle enable` を入力します。デフォルトでは、I/O スロットリングは有効になっています。

システムがキャンセルに応答しない場合は、サーバをリブートし、I/O スロットリングを無効にしてから、アップグレード手順を初めからやり直す必要があります。



## 以前のバージョンへの復帰

アップグレード後も、アップグレード前に実行していたソフトウェア バージョンに戻すことができます。これには、システムを再起動してアクティブでないパーティションのソフトウェアに切り替えます。

### 手順

- ステップ 1** 次の URL を入力して、直接 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページを表示します。

`https://server-name/cmplatform`

`server-name` は、Cisco Unified Communications Manager サーバのホスト名または IP アドレスです。

- ステップ 2** 管理者ユーザ名とパスワードを入力します。

- ステップ 3** [設定]>[バージョン]を選択します。

[バージョン設定] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** [バージョンの切り替え] ボタンをクリックします。

システムの再起動について確認すると、システムが再起動し、アップグレード前のソフトウェアが実行されます。この再起動には数分かかる場合があります。

## ダイヤル プランのインストール

ダイヤル プラン ファイルは、この章の初めの方で説明したソフトウェア アップグレードのインストール方法と同じ手順を使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。この手順の詳細については、「[ソフトウェアのアップグレードとインストール](#)」を参照してください。

ダイヤル プラン ファイルをシステムにインストールした後、Cisco Unified Communications Manager の管理ページにログインし、[コールルーティング]>[ダイヤルプランインストーラ]を選択して、ダイヤル プランのインストールを完了します。

## ロケールのインストール

シスコは、ロケール固有のバージョンの Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラを [www.cisco.com](http://www.cisco.com) で提供しています。このロケール インストーラはシステム管理者がインストールするもので、これを使用すると、ユーザがサポートされているインターフェイスを使用するとき、選択した翻訳済みテキストまたはトーン（使用可能な場合）を表示 / 受信できます。

### ユーザ ロケール

ユーザ ロケール ファイルは、電話機表示用の翻訳済みテキストとボイス プロンプト（使用可能な場合）、ユーザ アプリケーション、およびユーザが選択したロケールの Web ページを提供します。ユーザ専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

### ネットワーク ロケール

ネットワーク ロケール ファイルは、国固有の電話機トーンやゲートウェイ トーン（使用可能な場合）を提供します。ネットワーク専用のロケール インストーラは Web 上にあります。

1 つのロケール インストーラに複数のネットワーク ロケールが組み合わされている場合があります。



(注)

Cisco Media Convergence Server (MCS) またはシスコ承認の、顧客が提供するサーバは、複数のロケールをサポートできます。複数のロケール インストーラをインストールすることにより、ユーザは複数のロケールから選択できるようになります。

クラスタ内のすべてのサーバをリブートしないと、変更は有効になりません。クラスタ内のすべてのサーバへのインストールが終了するまで、サーバをリブートしないように強くお勧めします。通常の業務時間後にサーバをリブートして、コール処理の中断を最小限にとどめてください。

## ロケールのインストール

ロケール ファイルは、この章の初めの方で説明したソフトウェア アップグレードのインストール方法と同じ手順を使用して、ローカル ソースまたはリモート ソースからインストールできます。この手順の詳細については、「[ソフトウェアのアップグレードとインストール](#)」を参照してください。



(注)

新しくインストールしたロケールをアクティブにするには、サーバを再起動する必要があります。

インストールする必要があるロケール ファイルについては、「[ロケール ファイル](#)」を参照してください。複数のロケールをインストールしてから、サーバを再起動できます。

## ロケール ファイル

ロケールをインストールする場合、次のファイルをインストールする必要があります。

- ユーザ ロケール ファイル：特定の言語と国に関する言語情報が格納されています。ファイル名の表記は、次のとおりです。

cm-locale-language-country-version.cop

- 複合ネットワーク ロケール ファイル：すべての国に対応した、さまざまなネットワーク項目（電話機のトーン、アナンシエータ、およびゲートウェイ トーンなど）の国固有のファイルが格納されています。複合ネットワーク ロケール ファイル名の表記は、次のとおりです。

cm-locale-combinednetworklocale-version.cop

## エラー メッセージ

ロケール インストーラをアクティブ化するときに発生する可能性のあるメッセージの説明については、表 7-1 を参照してください。エラーが発生した場合は、インストール ログにあるメッセージを表示できます。

表 7-1 ロケール インストーラのエラー メッセージと説明

メッセージ	説明
[LOCALE] File not found: <language>_<country>_user_locale.csv, the user locale has not been added to the database.	データベースに追加するユーザ ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルド プロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] File not found: <country>_network_locale.csv, the network locale has not been added to the database.	データベースに追加するネットワーク ロケール情報が格納されている CSV ファイルが見つからない場合にこのエラーが発生します。これはビルド プロセスのエラーを示しています。
[LOCALE] Communications Manager CSV file installer installdb is not present or not executable	installdb という Cisco Unified Communications Manager アプリケーションが存在する必要があります。このアプリケーションは、CSV ファイルに格納されている情報を読み取り、この情報を正しく Cisco Unified Communications Manager データベースに適用します。このアプリケーションが見つからない場合、アプリケーションが Cisco Unified Communications Manager にインストールされていない（可能性は非常に低い）、削除された（可能性あり）またはサーバに Cisco Unified Communications Manager がインストールされていない（可能性が最も高い）ことが考えられます。データベースに適切なレコードが格納されていないとロケールは機能しないため、ロケールのインストールは中止されます。

表 7-1 ロケール インストーラのエラー メッセージと説明 (続き)

メッセージ	説明
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maDialogs_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	このエラーは、システムがチェックサム ファイルの作成に失敗した場合に発生します。原因としては、Java 実行ファイルの /usr/local/thirdparty/java/j2sdk/jre/bin/java が存在しない、Java アーカイブ ファイルの /usr/local/cm/jar/cmutil.jar が存在しないか損傷している、Java クラスの com.cisco.ccm.util.Zipper が存在しないか損傷していることが考えられます。これらのエラーが発生した場合でも、ロケールは正常に機能します。ただし、Cisco Unified Communications Manager Assistant ではローカライズされた Cisco Unified Communications Manager Assistant ファイルの変更は検出されません。
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maMessages_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/com/cisco/ipma/client/locales/maGlobalUI_<ll>_<CC>.properties.Checksum.	
[LOCALE] Could not create /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt.Checksum.	
[LOCALE] Could not find /usr/local/cm/application_locale/cmservices/ipma/LocaleMasterVersion.txt in order to update Unified CM Assistant locale information.	このエラーは、適切な場所にファイルが見つからない場合に発生します。原因としては、ビルド プロセスのエラーの可能性がります。
[LOCALE] Addition of <RPM-file-name> to the Cisco Unified Communications Manager database has failed!	このエラーは、ロケールのインストール時に発生した何らかの失敗が累積されたために発生し、終了条件を示しています。

## Cisco Unified Communication 製品のサポート

Cisco Unified Communications Manager ロケール インストーラがサポートしている製品のリストについては、次の URL から『Cisco IP Telephony Locale Installer for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/callmgr-locale-51>

## TFTP サーバファイルの管理

サーバ上の TFTP サーバに、電話機で使用するファイルをアップロードできます。アップロード可能なファイルには、カスタム呼出音、コールバック トーン、および背景画像などがあります。このオプションは、接続先の特定のサーバにのみファイルをアップロードするもので、クラスタ内の他のノードはアップグレードされません。

デフォルトでは、ファイルは `tftp` ディレクトリにアップロードされます。`tftp` ディレクトリのサブディレクトリにもファイルをアップロードできます。

クラスタ内に 2 台の Cisco TFTP サーバが設定されている場合、両方のサーバで次の手順を実行する必要があります。この手順を実行しても、ファイルがすべてのサーバに配信されるわけではなく、クラスタ内の 2 台の Cisco TFTP サーバにも配信されません。

TFTP サーバファイルをアップロードまたは削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ **ソフトウェア アップグレード** ] > [ **TFTP ファイル管理** ] を選択します。

[ TFTP ファイル管理 ] ウィンドウが表示され、現在アップロードされているファイルの一覧が表示されます。[ 検索 ] を使用すると、ファイルの一覧をフィルタリングできます。

**ステップ 2** ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

- a. [ **ファイルのアップロード** ] をクリックします。  
[ ファイルのアップロード ] ダイアログボックスが表示されます。
- b. ファイルをアップロードするには、[ **参照** ] をクリックし、アップロードするファイルを選択します。
- c. `tftp` ディレクトリのサブディレクトリにファイルをアップロードするには、[ **ディレクトリ** ] フィールドにサブディレクトリを入力します。
- d. アップロードを開始するには、[ **ファイルのアップロード** ] をクリックします。  
ファイルのアップロードが成功すると、[ **ステータス (Status)** ] 領域に表示されます。
- e. ファイルをアップロードしたら、Cisco TFTP サービスを再起動します。



**(注)** 複数のファイルをアップロードする場合は、すべてのファイルをアップロードした後に Cisco TFTP サービスを一度だけ再起動してください。

サービスの再起動の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

**ステップ 3** ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

- a. 削除するファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。  
また、[ **すべてを選択** ] をクリックするとすべてのファイルを選択でき、[ **すべてをクリア** ] をクリックするとすべての選択をクリアできます。

b. [ 選択項目の削除 ] をクリックします。

---



(注)

tftp ディレクトリに存在するファイルを修正する場合は、CLI コマンド `file list tftp` を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルを表示し、`file get tftp` を使用して TFTP ディレクトリ内のファイルをコピーします。詳細については、[付録 A「コマンドライン インターフェイス」](#)を参照してください。

---



## サービス

---

この章では、他のシステムに対する ping やリモート サポートの設定など、このオペレーティングシステムで使用可能なユーティリティ機能について説明します。

### Ping

Ping ユーティリティ ウィンドウを使用すると、ネットワーク内の他のサーバに ping を実行できます。

他のシステムに ping を実行するには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ サービス ] > [ PING ] を選択します。

[ リモートに対する PING(Ping remote) ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ping を実行するシステムの IP アドレスまたはネットワーク名を入力します。

**ステップ 3** ping 間隔を秒単位で入力します。

**ステップ 4** パケットサイズを入力します。

**ステップ 5** ping カウント、つまりシステムに ping を実行する回数を入力します。



**(注)** ping を複数指定すると、ping コマンドには ping の日時がリアルタイムで表示されなくなります。指定した回数の Ping が完了した後で日時が表示されます。

**ステップ 6** IPSec を確認するかどうかを選択します。

**ステップ 7** [ PING ] をクリックします。

[ リモートに対する PING(Ping remote) ] ウィンドウに ping 統計情報が表示されます。

---

## リモート サポート

[ リモートアカウントサポート ] ウィンドウでは、シスコのサポート担当者が指定された時間にシステムにアクセスできるリモート アカウントを設定できます。

リモート サポート プロセスは次のようになっています。

1. お客様がリモート サポート アカウントを設定します。このアカウントには、シスコ担当者がアクセスできる期間について設定可能な有効期限が含まれています。
2. リモート サポート アカウントが設定されると、パス フレーズが作成されます。
3. お客様がシスコ サポートに電話をかけ、リモート サポート アカウント名とパス フレーズを担当者に伝えます。
4. シスコ サポート担当者がこのパス フレーズをデコーダ プログラムに入力すると、パス フレーズからパスワードが作成されます。
5. シスコ サポート担当者は復号されたパスワードを使用して、リモート サポート アカウントでお客様のシステムにログインします。
6. リモート サポート アカウントの有効期限が切れると、シスコ サポート担当者はリモート サポート アカウントにアクセスできなくなります。

リモート サポートを設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [ Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理 ] ウィンドウで、[ サービス ] > [ リモートサポート ] を選択します。

[ リモートアクセスの設定 ] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** リモート アカウントのアカウント名と、アカウントの有効期限を日数で入力します。



(注) アカウント名は、長さが 6 文字以上、すべて小文字の英字にしてください。

**ステップ 3** [ 保存 ] をクリックします。

リモートサポートの詳細ウィンドウが表示されます。詳細ウィンドウの各フィールドの説明については、表 8-1 を参照してください。

**ステップ 4** 作成されたパス フレーズを使用してシステムにアクセスするには、シスコ担当者にご連絡ください。

**ステップ 5** リモート アクセス サポート アカウントを削除するには、[ 削除 ] ボタンをクリックします。



表 8-1 リモートサポートの詳細のフィールドと説明

フィールド	説明
デコードバージョン (Decode Version)	使用するデコーダのバージョンを示します。
アカウント名 (Account Name)	リモート サポート アカウントの名前を表示します。
期限切れ (Expiration)	リモート アカウントへのアクセスが無効になる日時を表示します。
パスフレーズ (Pass Phrase)	作成されたパス フレーズを表示します。





# コマンドライン インターフェイス

---

## 概要

この付録では、Cisco Unified Communications オペレーティング システム サーバで使用可能な CLI コマンドについて説明します。

## CLI セッションの開始

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの CLI には、次の方法でリモートまたはローカルのロケーションからアクセスできます。

- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページ用ワークステーションなどの Web クライアント ワークステーションからは、SSH を使用して Cisco Unified Communications オペレーティング システムとセキュア接続を確立できます。
- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの CLI には、インストール時に使用したモニタとキーボードから直接アクセスしたり、シリアル ポートに接続されているターミナルサーバを使用してアクセスしたりできます。この方法は、IP アドレスに問題がある場合に行ってください。

### 開始する前に

次の情報が設定された状態でインストールされていることを確認します。

- プライマリの IP アドレスとホスト名
- 管理者 ID
- パスワード

これらの情報は、Cisco IPT Platform にログインするために必要になります。

次の手順を実行して CLI セッションを開始します。

---

**ステップ 1** アクセス方法に応じて次のいずれかを行います。

- リモート システムから、SSH を使用して Cisco IPT Platform にセキュア接続します。SSH クライアントで次のように入力します。

```
ssh adminname@hostname
```

*adminname* には管理者 ID を指定し、*hostname* にはインストール中に定義したホスト名を指定します。

たとえば、`ssh admin@ipt-1` と指定します。

- 直接接続から、次のプロンプトが自動的に表示されます。

```
ipt-1 login:
```

**ipt-1** はシステムのホスト名を表します。

管理者 ID を入力します。

いずれの場合も、パスワードの入力を求められます。

## ステップ 2 パスワードを入力します。

CLI のプロンプトが表示されます。このプロンプトは管理者 ID を表します。たとえば、次のように表示されます。

```
admin:
```

---

## CLI の基本

ここでは、コマンドライン インターフェイスを使用するための基本的なヒントを示します。

### コマンドの補完

コマンドを補完するには、次のように **Tab** キーを使用します。

- コマンドの開始部分を入力し、**Tab** キーを押すと、コマンドが補完されます。たとえば、**se** と入力してから **Tab** キーを押すと、**set** が補完されます。
- コマンド名をすべて入力してから **Tab** キーを押すと、使用可能なすべてのコマンドまたはサブコマンドが表示されます。たとえば、**set** を入力し、**Tab** キーを押すと、すべての **set** のサブコマンドが表示されます。**\*** は、このコマンドにサブコマンドがあることを示します。
- コマンドに達してから **Tab** キーを押し続けると、現在のコマンドラインが繰り返されます。これ以外に追加の拡張はありません。

### コマンドのヘルプの取得

任意のコマンドのヘルプを、次の 2 種類の形式で取得できます。

- コマンドの定義と使用例が含まれている詳細ヘルプ
- コマンドの構文のみが含まれている簡易クエリー ヘルプ

#### 手順

---

CLI プロンプトから詳細なヘルプを取得するには、次のように入力します。

```
help command
```

*command* には、コマンド名またはコマンドとパラメータを指定します。[例 A-1](#) を参照してください。

CLI プロンプトからコマンド構文のみを照会するには、次のように入力します。

```
command?
```

*command* には、コマンド名またはコマンドとパラメータを指定します。[例 A-2](#) を参照してください。



(注) `set` などのメニュー コマンドの後に `?` を入力すると、Tab キーを押した場合と同じ結果が得られ、使用可能なコマンドがリスト表示されます。

#### 例 A-1 詳細なヘルプの例

```
admin:help file list activelog

activelog help:
This will list active logging files

options are:
page      - pause output
detail    - show detailed listing
reverse   - reverse sort order
date      - sort by date
size      - sort by size

file-spec can contain '*' as wildcards

Example:
admin:file list activelog platform detail
02 Dec,2004 12:00:59      <dir>   drf
02 Dec,2004 12:00:59      <dir>   log
16 Nov,2004 21:45:43      8,557   enGui.log
27 Oct,2004 11:54:33     47,916  startup.log
dir count = 2, file count = 2
```

#### 例 A-2 クエリーの例

```
admin:file list activelog?
Syntax:
file list activelog file-spec [options]
file-spec  mandatory   file to view
options    optional     page|detail|reverse|[date|size]
```

## CLI セッションの終了

CLI プロンプトで `quit` を入力します。リモートからログインしている場合は、ログオフすると `ssh` セッションが終了します。ローカルからログインしている場合は、ログオフするとログイン プロンプトに戻ります。

## Cisco IPT Platform CLI コマンド

次の各項では、Cisco Unified Communications オペレーティング システムで使用可能な CLI コマンドとその説明を示します。

### delete account

管理者アカウントを削除できます。

#### コマンド構文

`delete account account-name`

#### パラメータ

- *account-name* は管理者アカウントの名前を表します。

#### 要件

コマンド特権レベル：4

アップグレード時の許可の有無：なし

### delete dns

DNS サーバの IP アドレスを削除できます。

#### コマンド構文

`delete dns ip-address`

#### パラメータ

- *ip-address* は削除する DNS サーバの IP アドレスを表します。

#### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

---

#### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## delete ipsec

IPSec ポリシーとアソシエーションを削除できます。

### コマンド構文

**delete ipsec**

```
policy {ALL | policy-name}  
association policy name {ALL | association-name}
```

### パラメータ

- *policy-name* は IPSec ポリシーを表します。
- *association-name* は IPSec アソシエーションを表します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## delete process

特定のプロセスを削除できます。

### コマンド構文

**delete process** *process-id* [**force** | **terminate** | **crash**]

### パラメータ

- *process-id* はプロセスの ID 番号を表します。

### オプション

- **force**：プロセスを強制的に停止します。
- **terminate**：オペレーティングシステムにプロセスを停止するよう指示します。
- **crash**：プロセスをクラッシュさせクラッシュ ダンプを生成します。

### 使用方法の説明



(注)

コマンドだけではプロセスを削除できない場合に限り **force** オプションを使用し、**force** オプションでプロセスを削除できない場合に限り **terminate** オプションを使用してください。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## delete smtp

SMTP ホストを削除できます。

### コマンド構文

```
delete smtp
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## file check

/usr ディレクトリ ツリーのファイルやディレクトリが、最後のフレッシュ インストールまたはアップグレード以降に、追加、削除、またはサイズ変更されていないかを調べ、結果を表示します。

### コマンド構文

```
file check [detection-size-kb]
```

### オプション

*detection-size-kb* には、ファイルの変更をコマンドが表示するのに必要な最小ファイル サイズの変更を指定します。

### 使用方法の説明

コマンドから、システムのパフォーマンスに影響する可能性があることがユーザに通知され、続行するかどうかの確認が求められます。



### 注意

---

このコマンドを実行するとシステムのパフォーマンスに影響する可能性があるため、シスコではこのコマンドはピーク時以外の時間帯に実行することをお勧めしています。

---

結果には、削除されたファイルと新たに追加されたファイルの両方が表示されます。

### デフォルト

*detection-size-kb* のデフォルト値は 100 KB です。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし



## file delete

1 つまたは複数のファイルを削除します。

### コマンド構文

file delete

```
activelog directory/filename [detail] [noconfirm]
inactivelog directory/filename [detail] [noconfirm]
install directory/filename [detail] [noconfirm]
tftp directory/filename [detail]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は削除するファイルのパスとファイル名を指定します。*filename* にはワイルドカード文字の \* を使用できます。

### オプション

- **detail** : 削除したファイル名を削除した日付 / 時刻とともにリスト表示します。
- **noconfirm** : 削除のたびに確認を求めずにファイルを削除します。

### 使用方法の説明



#### 注意

Disaster Recovery System での使用時には可能な場合もありますが、それ以外の場合には、削除したファイルは復旧できません。

アクティブでない側で TFTP データ ファイルを削除すると、アクティブでない側にバージョンを切り替えるときにファイルを手動で復元しなければならない場合があります。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

インストール ログを削除します。

```
file delete install install.log
```

## file dump

ファイルの内容を 1 回に 1 ページずつ画面にダンプします。

### コマンド構文

#### file dump

```
activelog directory/filename [detail] [hex]  
inactivelog directory/filename [detail] [hex]  
install directory/filename [detail] [hex]  
tftp directory/filename [detail] [hex]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- *directory/filename* はダンプするファイルのパスとファイル名を指定します。*filename* には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の \* を使用できます。

### オプション

- **detail** : 日付と時刻とともにリスト表示します。
- **hex** : 出力を 16 進表記で表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : ログは 1、TFTP ファイルは 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

ファイル `_cdrIndex.idx` の内容をダンプします。

```
file dump activelog cm/cdr/_cdrIndex.idx
```

## file get

SFTP を介して別のシステムにファイルを送信します。

### コマンド構文

file get

```
activelog directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
inactivelog directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
install directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
tftp directory/filename [reltime] [abstime] [match] [recurs]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は削除するファイルのパスを指定します。*filename* には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の \* を使用できます。

### オプション

- **abstime** : 絶対表記による時間の期間。 *hh:mm:MM/DD/YY hh:mm:MM/DD/YY* の形式で指定します。
- **reltime** : 相対表記による時間の期間。 **minutes | hours | days | weeks | months** *value* の形式で指定します。
- **match** : ファイル名を特定のストリングと照合します。 *string value* の形式で指定します。
- **recurs** : サブディレクトリのファイルを含め、すべてのファイルを取得します。

### 使用方法の説明

コマンドで指定のファイルが識別された後、SFTP ホスト、ユーザ名、パスワードの入力を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

activelog オペレーティングシステム ディレクトリでストリング「plat」に一致するすべてのファイルを取得します。

```
file get activelog platform match plat
```

特定の期間に記録されたすべてのオペレーティングシステム ログ ファイルを取得します。

```
file get activelog platform/log abstime 18:00:9/27/2005 18:00:9/28/2005
```

## file list

使用可能なログ ディレクトリにあるログ ファイルをリスト表示します。

### コマンド構文

file list

```
activelog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]  
inactivelog directory [page] [detail] [reverse] [date | size]  
install directory [page] [detail] [reverse] [date | size]  
tftp directory [page] [detail] [reverse] [date | size]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- *directory* はリスト表示するディレクトリのパスを指定します。*directory* には、ディレクトリ 1 つが解決される場合に限り、ワイルドカード文字の \* を指定できます。

### オプション

- **detail** : 日付 / 時刻とともに詳細なリストを表示します。
- **date** : 日付でソートします。
- **size** : ファイル サイズでソートします。
- **reverse** : ソート順を逆転します。
- **page** : 出力を 1 回に 1 画面ずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : ログは 1、TFTP ファイルは 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

オペレーティング システムのログ ファイルを詳細情報とともにリスト表示します。

```
file list activelog platform/log page detail
```

CDR リポジトリ内のディレクトリをリスト表示します。

```
file list activelog cm/cdr_repository
```

指定のディレクトリにある CDR ファイルをサイズでリスト表示します。

```
file list activelog cm/cdr_repository/processed/20050812 size
```

## file search

ログの内容を検索し、一致する行を 1 回に 1 ページずつ表示します。

### コマンド構文

#### file search

```
activelog directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]  
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

```
inactivelog directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy]  
[ignorecase] [retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

```
install directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]  
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

```
tftp directory/filename reg-exp [abstime hh:mm:ss mm/dd/yyyy hh:mm:ss mm/dd/yyyy] [ignorecase]  
[retime {days | hours | minutes} timevalue]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- *reg-exp* は正規表現であることを表します。
- *directory/filename* は検索するファイルのパスを指定します。ワイルドカード文字の \* を使用してファイル名のすべてまたは一部を表すことができます。

### オプション

- **abstime** : 検索するファイルを作成時刻で指定します。開始時刻と終了時刻を入力します。
- **days|hours|minutes** : ファイルの生存時間の表記を、日数、時間数、分数のいずれにするか指定します。
- **ignorecase** : 検索時に大文字と小文字を区別しません。
- **retime** : 検索するファイルを作成時刻で指定します。検索するファイルの生存時間を入力します。
- *hh:mm:ss mm/dd/yyyy* : 「時:分:秒 月/日/年」の形式による絶対時間です。
- *timevalue* : 検索するファイルの生存時間です。この値の単位は、{**days** | **hours** | **minutes**} オプションで指定します。

### 使用方法の説明

検索用語は正規表現の形式で記述します。正規表現とは、検索パターンを記述した特殊なテキストストリングです。

1 ファイルでのみこの検索用語が見つかった場合、ファイル名が出力の最初に表示されます。複数のファイルでこの検索用語が見つかった場合、出力の各行が、一致した行を含むファイルの名前で始まります。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
file search activelog platform/log/platform.log Err[a-z] ignorecase
```

## file tail

ログ ファイルの末尾を表示（最後の数行を出力）します。

### コマンド構文

#### file tail

```
activelog directory/filename [detail] [hex] [lines]
inactivelog directory/filename [detail] [hex] [lines]
install directory/filename [detail] [hex] [lines]
tftp directory/filename [detail] [hex] [lines]
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- *directory/filename* は末尾を表示するファイルのパスを指定します。ファイル名には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の \* を使用できます。

### オプション

- **detail** : 日付 / 時刻とともに詳細なリストを表示します。
- **hex** : 16 進表記のリストを表示します。
- **lines** : 表示する行数です。

### 要件

コマンド特権レベル : ログは 1、TFTP ファイルは 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

オペレーティング システムの CLI ログ ファイルの末尾を表示します。

```
file tail activelog platform/log/cli00001.log
```

## file view

ファイルの内容を表示します。

### コマンド構文

file view

```
activelog directory/filename
inactivelog directory/filename
install directory/filename
tftp directory/filename
```

### パラメータ

- **activelog** は、アクティブな側のログを指定します。
- **inactivelog** はアクティブでない側のログを指定します。
- **install** はインストール ログを指定します。
- **tftp** は TFTP ファイルを指定します。
- **directory/filename** は表示するファイルのパスを指定します。*filename* には、ファイルを 1 つ解決する場合に限り、ワイルドカード文字の \* を使用できます。

### 使用方法の説明



#### 注意

このコマンドをバイナリ ファイルの表示に使用しないでください。端末セッションが破損する可能性があります。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

インストール ログを表示します。

```
file view install install.log
```

特定の CDR ファイルを表示します。

```
file view activelog /cm/cdr_repository/processed/20058012/{filename}
```

## run sql

SQL コマンドを実行できます。

### コマンド構文

```
run sql sql_statement
```

### パラメータ

- *sql\_statement* は実行する SQL コマンドを表します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

### 例

SQL コマンドを実行します。

```
run sql select name from device
```

## set account

オペレーティング システムの新規アカウントを設定します。

### コマンド構文

```
set account name
```

### パラメータ

- *name* は新規アカウントのユーザ名を表します。

### 使用方法の説明

ユーザ名を入力すると、新規アカウントの特権レベルとパスワードの入力を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし



## set commandcount

CLI のコマンド プロンプトを変更し、実行済みの CLI コマンド数を表示するようにします。

### コマンド構文

```
set commandcount {enable | disable}
```

### パラメータ

- *unit-name* は再生成する証明書の名前を表します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set ipsec

IPSec のポリシーとアソシエーションを設定できます。

### コマンド構文

```
set ipsec
```

```
    policy {ALL | policy-name}
```

```
    association policy-name {ALL | association-name}
```

### パラメータ

- *policy-name* は IPSec ポリシーを表します。
- *association-name* は IPSec アソシエーションを表します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set logging

ロギングを有効または無効にできます。

### コマンド構文

```
set logging {enable | disable}
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

## set network dhcp

イーサネット インターフェイス 0 の DHCP を有効または無効にします。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

### コマンド構文

```
set network dhcp eth0 {enable | disable}
```

### パラメータ

- eth0 は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。また、シスコでは、IP アドレスの変更時はすべてのノードの再起動を推奨しています。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network dns

プライマリまたはセカンダリの DNS サーバの IP アドレスを設定します。

### コマンド構文

```
set network dns {primary | secondary} ip-address
```

### パラメータ

- ip-address はプライマリまたはセカンダリの DNS サーバの IP アドレスを表します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network dns options

DNS オプションを設定します。

### コマンド構文

```
set network dns options [timeout seconds] [attempts number] [rotate]
```

### パラメータ

- **timeout** は DNS 要求のタイムアウトを設定します。
- **attempts** は終了するまでの DNS 要求の試行回数を設定します。
- **rotate** は設定されている DNS サーバ間でシステムを巡回させることで負荷を分散します。
- **seconds** は DNS のタイムアウト期間を秒数で指定します。
- **number** は試行回数を指定します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## set network domain

システムのドメイン名を設定します。

### コマンド構文

```
set network domain domain-name
```

### パラメータ

- **domain-name** は割り当てるシステム ドメインを表します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network failover

Media Convergence Server のネットワーク インターフェイス カードのネットワーク耐障害性を有効または無効にします。

### コマンド構文

```
failover {enable | disable}
```

### パラメータ

- `enable` はネットワークの耐障害性を有効にします。
- `disable` はネットワークの耐障害性を無効にします。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network gateway

ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

### コマンド構文

```
set network gateway ip-address
```

### パラメータ

- `ip-address` は割り当てるネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを表します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network ip

イーサネット インターフェイス 0 の IP アドレスを設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

### コマンド構文

```
set network ip eth0 ip-address ip-mask
```

### パラメータ

- `eth0` は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- `ip-address` は割り当てる IP アドレスを表します。
- `ip-mask` は割り当てる IP マスクを表します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

続行する場合は、このコマンドによりシステムが再起動します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network mtu

最大 MTU 値を設定します。

### コマンド構文

```
set network mtu mtu_max
```

### パラメータ

- `mtu_max` は最大 MTU 値を指定します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

## set network max\_ip\_contrack

ip\_contrack\_max 値を設定します。

### コマンド構文

```
set network max_ip_contrack ip_contrack_max
```

### パラメータ

- *ip\_contrack\_max* は ip\_contrack\_max の値を指定します。

## set network nic

イーサネット インターフェイス 0 のプロパティを設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

### コマンド構文

```
set network nic eth0 [auto en | dis] [speed 10 | 100] [duplex half | full]
```

### パラメータ

- *eth0* は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。
- *auto* は自動ネゴシエーションを、有効と無効のどちらかに指定します。
- *speed* はイーサネット接続の速度を、10 Mbps と 100 Mbps のどちらかに指定します。
- *duplex* は半二重または全二重に指定します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



---

(注) 1 回に有効にできるアクティブな NIC は 1 つのみです。

---



**注意**

---

続行する場合は、このコマンドにより NIC のリセット中に一時的にネットワークが切断されます。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set network pmtud

Path MTU Discovery を有効または無効にします。

### コマンド構文

```
set network pmtud [enable | disable]
```

### パラメータ

- **enable** は Path MTU Discovery (PMTUD;パス MTU ディスカバリ) を有効にします。
- **disable** は Path MTU Discovery を無効にします。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

---

## set network status

イーサネット 0 のステータスを up または down に設定します。イーサネット インターフェイス 1 は設定できません。

### コマンド構文

```
set network status eth0 {up | down}
```

### パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

---

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set password

管理者用のパスワードとセキュリティ パスワードを変更できます。

### コマンド構文

```
set password {admin | security}
```

### パラメータ

- eth0 は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

### 使用方法の説明

ユーザに新旧 2 種類のパスワードを入力するように要求します。



---

パスワードには少なくとも 6 文字が必要です。また、システムでセキュリティの強度が確認されません。

---

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## set smtp

SMTP サーバのホスト名を設定します。

### コマンド構文

```
set smtp hostname
```

### パラメータ

- *hostname* は SMTP サーバ名を表します。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし

## set timezone

システムの時間帯を変更できます。

### コマンド構文

```
set timezone timezone
```

### パラメータ

- *timezone* は新しい時間帯を指定します。



### 使用方法の説明

新しい時間帯を一意に識別するのに十分な文字を入力してください。時間帯で使用する文字は、大文字と小文字が区別されることに注意が必要です。



#### 注意

時間帯の変更後はシステムを再起動する必要があります。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

### 例

時間帯を太平洋標準時に設定します。

```
set timezone Pac
```

## set trace

指定のタスクのトレース アクティビティを設定します。

### コマンド構文

set trace

```
enable Error tname  
enable Special tname  
enable State_Transition tname  
enable Significant tname  
enable Entry_exit tname  
enable Arbitrary tname  
enable Detailed tname  
disable tname
```

### パラメータ

- *tname* はトレースを有効または無効にするタスクを表します。
- **enable Error** はタスクのトレース設定をエラー レベルに設定します。
- **enable Special** はタスクのトレース設定を特別レベルに設定します。
- **enable State\_Transition** はタスクのトレース設定を状態遷移レベルに設定します。
- **enable Significant** はタスクのトレース設定を最上位レベルに設定します。
- **enable Entry\_exit** はタスクのトレース設定を entry\_exit レベルに設定します。
- **enable Arbitrary** はタスクのトレース設定を任意レベルに設定します。
- **enable Detailed** はタスクのトレース設定を詳細レベルに設定します。
- **disable** はタスクのトレース設定を解除します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set web-security

オペレーティング システムに関する Web セキュリティ証明書情報を設定します。

### コマンド構文

```
set web-security orgunit orgname locality state country
```

### パラメータ

- *orgunit* は組織ユニットを表します。
- *orgname* は組織名を表します。
- *locality* は組織のロケーションを表します。
- *state* は組織のステータスを表します。
- *country* は組織の国名を表します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## set workingdir

アクティブなログ、非アクティブなログ、インストール用のログに作業ディレクトリを設定します。

### コマンド構文

```
set workingdir
```

```
    activelog directory
```

```
    inactivelog directory
```

```
    install directory
```

```
    tftp directory
```

### パラメータ

- **activelog** はアクティブなログの作業ディレクトリを設定します。
- **inactivelog** は非アクティブなログの作業ディレクトリを設定します。
- **install** はインストール ログの作業ディレクトリを設定します。
- **tftp** は TFTP ファイルの作業ディレクトリを設定します。
- *directory* は現在の作業ディレクトリを表します。

### 要件

コマンド特権レベル : ログは 0、TFTP は 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show account

マスター管理者アカウントを除き、現在の管理者アカウントをリスト表示します。

### コマンド構文

```
show account
```

### 要件

コマンド特権レベル : 4

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show cert

証明書の内容と証明書信頼リストを表示します。

### コマンド構文

```
show cert
```

```
    own filename
```

```
    trust filename
```

```
    list {own | trust}
```

### パラメータ

- *filename* は認証ファイルの名前を表します。
- **own** は所有する証明書を指定します。
- **trust** は信頼できる証明書を指定します。
- **list** は証明書信頼リストを指定します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

所有する証明書信頼リストを表示します。

```
show cert list own
```

## show environment

サーバハードウェアに関する情報を表示します。

### コマンド構文

show environment

fans  
power-supply  
temperatures

### オプション

- **fans** : ファンプローブによって収集された情報を表示します。
- **power-supply** : 電源プローブによって収集された情報を表示します。
- **temperatures** : 温度プローブによって収集された情報を表示します。

## show firewall list

サーバのシステム動作について表示します。

### コマンド構文

show firewall list [detail] [page] [file filename]

### オプション

- **detail** : システムで使用可能なすべてのデバイスに関する詳細な統計情報を表示します。
- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **file filename** : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に文字「.」が含まれていないことを確認してください。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show hardware

プラットフォームのハードウェアに関する次の情報を表示します。

### コマンド構文

```
show hardware
```

### 使用方法の説明

プラットフォームのハードウェアに関する次の情報を表示します。

- プラットフォーム名
- シリアル番号
- BIOS のビルド レベル
- BIOS の製造業者
- アクティブ プロセッサ
- RAID コントローラのステータス

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show ipsec

IPSec ポリシーとアソシエーションの情報を表示します。

### コマンド構文

```
show ipsec
```

```
    policy  
    association policy  
    information policy association  
    status
```

### パラメータ

- **policy** はノードのすべての IPSec ポリシーを表示します。
- **association** はポリシーのアソシエーション リストとステータスを表示します。
- **information** はポリシーのアソシエーションの詳細とステータスを表示します。
- **status** は、システムに定義されているすべての IPsec トンネルのステータスを表示します。
- *policy* は特定の IPSec ポリシーの名前を表します。
- *association* はアソシエーション名を表します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

IPSec ポリシーを表示します。

```
show ipsec policy
```

## show logins

最近のサーバへのログインをリスト表示します。

### コマンド構文

```
show logins number
```

### パラメータ

*number* に表示するログインの直近の数を指定します。デフォルトは 20 です。

## show memory

サーバメモリに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show memory
```

```
    count  
    module [ALL | module_number]  
    size
```

### オプション

- **count** : システム上のメモリ モジュール数を表示します。
- **module** : 各メモリ モジュールの詳細情報を表示します。
- **size** : メモリの総量を表示します。

### パラメータ

ALL はインストールされているすべてのメモリ モジュールに関する情報を表示します。

*module\_number* は表示するメモリ モジュールを指定します。

## show myself

現在のアカウントに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show myself
```

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show network

ネットワーク情報を表示します。

### コマンド構文

show network

```
eth0 [detail]
failover [detail] [page]
route [detail]
status [detail] [listen] [process] [all] [nodns] [search stext]
ip_conntrack
max_ip_conntrack
dhcp eth0 status
all [detail]
```

### パラメータ

- eth0 はイーサネット 0 を指定します。
- failover はネットワークの耐障害性情報を指定します。
- route はネットワークのルーティング情報を指定します。
- status はアクティブなインターネット接続を指定します。
- ip\_conntrack は ip\_conntrack 使用状況の情報を指定します。
- max\_ip\_conntrack は max\_ip\_conntrack 情報を指定します。
- dhcp eth0 status は DHCP のステータス情報を表示します。
- all はすべての基本ネットワーク情報を指定します。

### オプション

- detail : 追加情報を表示します。
- page : 情報を 1 回に 1 ページずつ表示します。
- listen : リスニングソケットのみ表示します。
- process : 各ソケットが属するプログラムのプロセス ID と名前を表示します。
- all : リスニングソケットと非リスニングソケットの両方を表示します。
- nodns : DNS 情報を除く数字アドレスを表示します。
- search stext : 出力中の stext を検索します。

### 使用方法の説明

eth0 パラメータはイーサネット ポート 0 の設定 (DHCP と DNS の設定とオプションも含む) を表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

アクティブなインターネット接続を表示します。

```
show network status
```

## show open

システムのオープン ファイルとオープン ポートを表示します。

### 構文説明

show open

```
files [all] [process processID] [regexp reg_exp]
ports [all] [regexp reg_exp]
```

### パラメータ

- files はシステムのオープン ファイルを表示します。
- ports はシステムのオープン ポートを表示します。

### オプション

- all : オープンしているすべてのファイルとポートを表示します。
- process : 指定のプロセスに属するオープン ファイルを表示します。
- processID : プロセスを指定します。
- regexp : 指定の正規表現に一致するオープン ファイルまたはオープン ポートを表示します。
- reg\_exp : 正規表現

## show packages

インストール パッケージの名前とバージョンを表示します。

### コマンド構文

show packages

```
active name [page]
inactive name [page]
```

### パラメータ

name はパッケージ名を表します。アクティブまたは非アクティブなすべてのパッケージを表示するには、ワイルドカード文字の \* を使用します。

### オプション

- page : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり



## show perf counterhelp

指定の perfmon カウンタについて説明するテキストを表示します。

### コマンド構文

```
show perf counterhelp class-name counter-name
```

### パラメータ

- *class-name* はカウンタを含むクラス名を表します。
- *counter-name* は表示するカウンタを表します。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show perf list categories

perfmon システムのすべてのカテゴリをリスト表示します。

### コマンド構文

```
show perf list categories
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show perf list classes

perfmon クラスまたはオブジェクトをリスト表示します。

### コマンド構文

```
show perf list classes [cat category] [detail]
```

### オプション

- *detail*：詳細情報を表示します。
- *cat category*：指定のカテゴリの perfmon クラスを表示します。

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show perf list counter

指定した perfmon クラスの perfmon カウンタをリスト表示します。

### コマンド構文

```
list counters class-name [detail]
```

### パラメータ

*class-name* はカウンタをリスト表示する perfmon クラス名を表します。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

### オプション

detail : 詳細情報を表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf list instances

指定した perfmon クラスの perfmon インスタンスをリスト表示します。

### コマンド構文

```
list instances class-name [detail]
```

### パラメータ

*class-name* はカウンタをリスト表示する perfmon クラス名を表します。



(注) クラス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

### オプション

detail : 詳細情報を表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf query class

perfmon クラスを照会してすべてのインスタンスと各インスタンスのカウント値を表示します。

### コマンド構文

```
show perf query class class-name [,class-name...]
```

### パラメータ

*class-name* は照会する perfmon クラスを指定します。1 コマンドにつき最大 5 クラスまで指定できます。



(注) クラス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf query counter

指定したカウンタを照会し、すべてのインスタンスのカウント値を表示します。

### コマンド構文

```
show perf query counter class-name counter-name [,counter-name...]
```

### パラメータ

- *class-name* は照会する perfmon クラスを指定します。
- *counter-name* は表示するカウンタを指定します。1 コマンドにつき最大 5 カウンタまで指定できます。



(注) クラス名またはカウンタ名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf query instance

指定したインスタンスを照会し、そのすべてのカウンタ値を表示します。

### コマンド構文

```
show perf query instance class-name instance-name [,instance-name...]
```

### パラメータ

- *class-name* は照会する perfmon クラスを指定します。
- *instance-name* は表示する perfmon インスタンスを指定します。1 コマンドにつき最大 5 インスタンスまで指定できます。



(注) クラス名またはインスタンス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みません。

### 使用方法の説明

このコマンドは、個別の perfmon クラスには適用されません。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show perf query path

指定した perfmon パスを照会します。

### コマンド構文

```
show perf query path path-spec [,path-spec...]
```

### パラメータ

- インスタンスベースの perfmon クラスの場合、*path-spec* を *class-name(instance-name)\counter-name* として指定します。
- 非インスタンスベースの perfmon クラス (個別) の場合、*path-spec* を *class-name\counter-name* として指定します。  
1 コマンドにつき最大 5 パスまで指定できます。



(注) パス名に空白が含まれている場合は、名前を二重引用符で囲みます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

```
show perf query path "Cisco Phones(phone-0)\CallsAttempted",
"Cisco Unified Communications Manager\T1ChannelsActive"
```

## show process

プロセスと負荷に関する情報を表示します。

### コマンド構文

show process

```
load [cont] [clear] [noidle] [num xx] [thread] [cpu] [memory] [time] [specified] [page]
list [page] [short] [detail] [thread] [fd] [cont] [clear] [process id id] [argument id id] [owner name name]
```

### パラメータ

- **load** はアクティブな各プロセスの CPU の負荷を表示します。
- **list** はすべてのプロセスを表示します。

### オプション

- **cont** : 引き続きコマンドを続行します。
- **clear** : 出力の表示前に画面をクリアします。
- **noidle** : アイドル プロセスまたはゾンビ プロセスを無視します。
- **num *xx*** : 表示するプロセスの数を設定します (デフォルト =10、**all** = すべてのプロセス)。
- **thread** : スレッドを表示します。
- **cpu** : 出力を CPU の使用状況で表示します。
- **memory** : 出力をメモリの使用状況でソートします。
- **short** : 短いリストで表示します。
- **time** : 出力を時間の使用状況でソートします。
- **page** : 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **detail** : 詳細をリスト表示します。
- **process id *id*** : 特定のプロセス番号またはコマンド名のみ表示します。
- **argument name *name*** : 引数名を持つ特定のプロセスのみ表示します。
- **thread** : リスト表示にスレッド プロセスを含めます。
- **fd** : プロセスに関連付けられているファイル記述子を表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

プロセスの詳細を 1 回に 1 ページずつ表示します。

```
show process list detail page
```

## show registry

レジストリの内容を表示します。

### コマンド構文

```
show registry system component [name] [page]
```

### パラメータ

- *system* はレジストリのシステム名を表します。
- *component* はレジストリのコンポーネント名を表します。
- *name* は表示するパラメータの名前を表します。



(注) すべての項目を表示するには、ワイルドカード文字の \* を入力します。

### オプション

page : 1 回に 1 ページずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

cm システムの dbl/sdi コンポーネントの内容を表示します。

```
show registry cm dbl/sdi
```

## show risdb

RIS データベース テーブルに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show risdb
```

```
list [file filename]
```

```
query table1 table2 table3 ...[file filename]
```

### パラメータ

- **list** は Realtime Information Service (RIS) データベースでサポートされるテーブルを表示します。
- **query** は RIS テーブルの内容を表示します。

### オプション

file *filename* : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を platform/cli/*filename.txt* に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

**要件**

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

**例**

RIS データベース テーブルをリスト表示します。

```
show risdb list
```

## show smtp

SMTP ホストの名前を表示します。

**コマンド構文**

```
show snmp
```

**要件**

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show stats io

システムの IO 統計情報を表示します。

**コマンド構文**

```
show stats io [kilo] [detail] [page] [file filename]
```

**オプション**

- **kilo**：統計をキロバイトで表示します。
- **detail**：システムで使用可能なすべてのデバイスに関する詳細な統計情報を表示し、kilo オプションを上書きします。
- **file filename**：情報をファイルに出力します。



**(注)** file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

**要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show status

基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。

### コマンド構文

show status

### 使用方法の説明

次の基本的なプラットフォーム ステータスを表示します。

- ホスト名
- 日付
- 時間帯
- ロケール
- 製品バージョン
- プラットフォームのバージョン
- CPU の使用状況
- メモリとディスクの使用状況

### 要件

コマンド特権レベル : 0

## show tech all

すべての show tech コマンドの出力を組み合わせて表示します。

### コマンド構文

all [page] [file filename]

### オプション

- page : 1 回に 1 ページずつ表示します。
- file filename : 情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を platform/cli/filename.txt に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり



## show tech ccm\_service

システムで実行可能なすべての Cisco Unified Communications Manager サービスに関する情報を表示します。

### コマンド構文

```
show tech ccm_service
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech database

データベース全体の CSV ファイルを作成します。

### コマンド構文

```
show tech database
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech dbintegrity

データベースの整合性を表示します。

### コマンド構文

```
show tech dbintegrity
```

## show tech dbinuse

使用中のデータベースを表示します。

### コマンド構文

```
show tech dbinuse
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech dbschema

データベース スキーマを CSV ファイルに表示します。

### コマンド構文

```
show tech dbschema
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech dbstateinfo

データベースの状態を表示します。

### コマンド構文

```
show tech dbstateinfo
```

## show tech devdefaults

デバイスのデフォルト テーブルを表示します。

### コマンド構文

```
show tech devdefaults
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech gateway

データベースからゲートウェイ テーブルを表示します。

### コマンド構文

```
show tech gateway
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech locales

デバイス、デバイス プール、エンド ユーザのロケール情報を表示します。

### コマンド構文

```
show tech locales
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech network

サーバのネットワーク動作について表示します。

### コマンド構文

```
show tech network [page] [file filename]
```

### オプション

- `page`：1 回に 1 ページずつ表示します。
- `file filename`：情報をファイルに出力します。



(注) `file` オプションは情報を `platform/cli/filename.txt` に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech notify

データベース変更通知モニタを表示します。

### コマンド構文

```
show tech notify
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech params all

すべてのデータベース パラメータを表示します。

### コマンド構文

```
show tech params all
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech params enterprise

データベースのエンタープライズ パラメータを表示します。

### コマンド構文

```
show tech params enterprise
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech params service

データベース サービス パラメータを表示します。

### コマンド構文

```
show tech params service
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech prefs

データベースの設定を表示します。

### コマンド構文

```
show tech prefs
```

## show tech procedures

データベースに関して使用中の実行中のプロシージャを表示します。

### コマンド構文

```
show tech procedures
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech routepatterns

システムに設定されているルート パターンを表示します。

### コマンド構文

```
show tech routepatterns
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech routeplan

システムに設定されているルート プランを表示します。

### コマンド構文

```
show tech routeplan
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech runtime

サーバのランタイム動作について表示します。

### コマンド構文

```
show tech params runtime [page] [file filename]
```

### オプション

- `page`：1 回に 1 ページずつ表示します。
- `file filename`：情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を platform/cli/*filename.txt* に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

#### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech systables

sysmaster データベースのすべてのテーブルの名前を表示します。

#### コマンド構文

show tech systables

#### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech system

サーバのシステム動作について表示します。

#### コマンド構文

show tech system [page] [file *filename*]

#### オプション

- **page**：1 回に 1 ページずつ表示します。
- **file *filename***：情報をファイルに出力します。



(注) file オプションは情報を platform/cli/*filename.txt* に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。

#### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## show tech table

指定のデータベース テーブルの内容を表示します。

### コマンド構文

```
show tech table table_name [page] [csv]
```

### パラメータ

*table\_name* は、表示するテーブルの名前を表します。

### オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **csv** : 出力をカンマ区切り形式ファイルに送信します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech triggers

テーブル名とこれらのテーブルに関連付けられているトリガーを表示します。

### コマンド構文

```
show tech triggers
```

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show tech version

インストールしたコンポーネントのバージョンを表示します。

### コマンド構文

```
show tech version [page]
```

### オプション

**Page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show timezone

時間帯情報を表示します。

### コマンド構文

```
show timezone
```

```
    config  
    list [page]
```

### パラメータ

- `config` は現在の時間帯の設定を表示します。
- `list` は使用可能な時間帯を表示します。

### オプション

- `page` : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## show trace

特定のタスクのトレース情報を表示します。

### コマンド構文

```
show trace [task_name]
```

### パラメータ

`task_name` は、トレース情報を表示するタスクの名前を表します。



(注) パラメータを入力しない場合、使用可能なタスクのリストが返されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

### 例

`cdp` のトレース情報を表示します。

```
show trace cdps
```



## show ups status

USB 接続の APC Smart-UPS デバイスの現在のステータスを表示し、監視サービスがまだ開始されていない場合は開始します。

このコマンドによるフル ステータス表示は、7835-H2 および 7825-H2 サーバでのみ使用可能です。

### コマンド構文

```
show ups status
```

## show version

アクティブまたは非アクティブなパーティションで使用するソフトウェアのバージョンを表示します。

### コマンド構文

```
show version
```

```
active
```

```
inactive
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show web-security

現在の Web セキュリティ証明書の内容を表示します。

### コマンド構文

```
show web-security
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## show workingdir

activelog、inactivelog、install、TFTP の現在の作業ディレクトリを取得します。

### コマンド構文

```
show workingdir
```

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## unset ipsec

IPSec のポリシーとアソシエーションを無効にできます。

### コマンド構文

unset ipsec

```
policy {ALL | policy-name}
association policy-name {ALL | association-name}
```

### パラメータ

- *policy-name* は IPSec ポリシーの名前を表します。
- *association-name* は IPSec アソシエーションの名前を表します。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## unset network

DNS オプションの設定を解除します。

### コマンド構文

unset network dns options [timeout] [attempts] [rotate]

### パラメータ

- *timeout* は DNS クエリーのデフォルト設定が失敗したとシステムが判断するまでの待機時間を設定します。
- *attempts* はデフォルト設定に失敗するまでの DNS の試行回数を設定します。
- *rotate* はデフォルト設定をするネームサーバの選択方法を設定します。この設定によりネームサーバ間での負荷分散の方法が変化します。

### 使用方法の説明

このコマンドを続行するかどうかの確認が表示されます。



#### 注意

---

続行する場合は、このコマンドにより一時的にネットワークが切断されます。

---

## utils core list

既存のすべてのコア ファイルをリスト表示します。

### コマンド構文

utils core list

## utils core analyze

指定のコア ファイルのバックトレース、スレッド リスト、すべての CPU レジスタの現在の値を生成します。

### コマンド構文

`utils core analyze core file name`

### パラメータ

- `core file name` はコア ファイルの名前を指定します。

### 使用方法の説明

このコマンドによって、コア ファイルと同じ名前で拡張子 .txt の付いたファイルがコア ファイルと同じディレクトリに作成されます。このコマンドは、アクティブなパーティションでのみ動作します。

## utils csa disable

Cisco Security Agent (CSA) を停止します。

### コマンド構文

`utils csa disable`

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils csa enable

Cisco Security Agent (CSA) を有効にします。

### コマンド構文

`utils csa enable`

### 使用方法の説明

CSA を有効にするかどうかの確認を求められます。



### 注意

CSA.ca の起動後はシステムを再起動する必要があります。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils csa status

Cisco Security Agent (CSA) の現在のステータスを表示します。

### コマンド構文

```
utils csa status
```

### 使用方法の説明

CSA の稼働状況が表示されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils dbreplication status

データベースの複製のステータスを表示します。このコマンドはクラスタの最初のノード (パブリッシャ サーバ) でのみ実行してください。

### コマンド構文

```
utils dbreplication status
```

## utils dbreplication stop

データベースの複製の自動セットアップを停止します。

### コマンド構文

```
utils dbreplication stop
```

## utils dbreplication repair

データベースの複製を修復します。

### コマンド構文

```
utils dbreplication repair
```

## utils dbreplication reset

データベースの複製をリセットおよびリスタートします。

### コマンド構文

```
utils dbreplication reset
```

## utils disaster\_recovery backup tape

バックアップ ジョブを開始し、生成される tar ファイルをテープに格納します。

### コマンド構文

**backup tape** *featurelist tapeid*

### パラメータ

- *featurelist* はバックアップする機能をカンマで区切ったリストです。
- *tapeid* は使用可能なテープ デバイスの ID を表します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## utils disaster\_recovery backup network

バックアップ ジョブを開始し、生成される tar ファイルをリモート サーバに格納します。

### コマンド構文

**backup network** *featurelist path servername username*

### パラメータ

- *featurelist* はバックアップする機能をカンマで区切ったリストです。
- *path* はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。
- *servername* はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。

### 使用方法の説明



(注) リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## utils disaster\_recovery cancel\_backup

継続中のバックアップ ジョブをキャンセルします。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery cancel_backup
```

### 使用方法の説明

バックアップ ジョブをキャンセルするかどうか確認を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## utils disaster\_recovery restore\_tape

復元ジョブを開始し、バックアップ ファイルの tar をテープから取り出します。

### コマンド構文

```
restore_tape server tarfilename tapeid
```

### パラメータ

- *server* は復元するサーバのホスト名を指定します。
- *tarfilename* は復元するファイル名を指定します。
- *tapeid* は復元ジョブを実行するテープ デバイスの名前を指定します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## utils disaster\_recovery restore\_network

復元ジョブを開始し、バックアップ ファイルの tar をリモート サーバから取り出します。

### コマンド構文

```
restore_network restore_server tarfilename path servername username
```

### パラメータ

- *restore\_server* は復元するサーバのホスト名を指定します。
- *tarfilename* は復元するファイル名を指定します。
- *path* はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。
- *servername* はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。

### 使用方法の説明



(注) リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

## utils disaster\_recovery show\_backupfiles network

復元ジョブを開始し、バックアップ ファイルの tar をリモート サーバから取り出します。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_backupfiles network path servername username
```

### パラメータ

- *path* はリモート サーバでのバックアップ ファイルの位置を表します。
- *servername* はバックアップ ファイルを格納しているサーバの IP アドレスまたはホスト名を表します。
- *username* はリモート サーバにログインするために必要なユーザ名を表します。

### 使用方法の説明



(注) リモート サーバのアカウントのパスワード入力を求められます。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils disaster\_recovery show\_backupfiles tape

テープに格納されているバックアップ ファイルの情報を表示します。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_backupfiles tape tapeid
```

### パラメータ

- *tapeid* は使用可能なテープ デバイスの ID を表します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils disaster\_recovery show\_registration

指定のサーバに登録されている機能およびコンポーネントを表示します。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_registration hostname
```

### パラメータ

- *hostname* は登録情報を表示するサーバを指定します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils disaster\_recovery show\_tapeid

テープ デバイス ID のリストを表示します。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery show_tapeid
```

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils disaster\_recovery status

現在のバックアップまたは復元ジョブのステータスを表示します。

### コマンド構文

```
utils disaster_recovery status operation
```

### パラメータ

- *operation* には **backup** または **restore** のいずれかを継続中の操作名として指定します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし



## utils fior

サーバの I/O を監視できます。ファイル I/O レポート サービスは、プロセス単位のファイル I/O 情報を収集するカーネル ベースのデーモンを実行します。

### コマンド構文

utils fior

disable  
enable  
list  
start  
status  
stop  
top

### オプション

- **disable** : マシンのブート時にファイル I/O レポート サービスが自動的に開始しないようにします。このコマンドは、リブート時以外はサービスを停止しません。サービスを即時に停止するには、**stop** オプションを使用します。
- **enable** : マシンのブート時にファイル I/O レポート サービスの自動的な開始を有効にします。このコマンドは、リブート時以外はサービスを開始しません。サービスを即時に開始するには、**start** オプションを使用します。
- **list** : ファイル I/O イベントを最も古いものから最新の順に時系列でリスト表示します。
- **start** : 停止されていたファイル I/O レポート サービスを開始します。サービスは手動で停止されるかマシンがリブートされるまで、開始された状態を維持します。
- **status** : ファイル I/O レポート サービスのステータスを表示します。
- **stop** : ファイル I/O レポート サービスを停止します。サービスは手動で開始されるかマシンがリブートされるまで停止された状態を維持します。
- **top** : ファイル I/O の実行数が最多のものからプロセスをリスト表示します。このリストは、読み取られた総バイト数、書き込まれた総バイト数、バイト読み取り率、またはバイト書き込み率でソートできます。

## utils iothrottle enable

I/O スロットリング拡張を有効にします。有効にすると、I/O スロットリング拡張により、アクティブなシステムに対するアップグレードの影響が抑えられます。

### コマンド構文

utils iothrottle enable

## utils iothrottle disable

I/O スロットリング拡張を無効にします。このコマンドにより、アップグレード時にシステムに影響がおよぶ可能性があります。

### コマンド構文

utils iothrottle disable

## utils iothrottle status

I/O スロットリング拡張のステータスを表示します。

### コマンド構文

```
utils iothrottle status
```

## utils netdump client

netdump クライアントを設定します。

### コマンド構文

```
utils netdump client
```

```
start ip-address-of-netdump-server
status
stop
```

### パラメータ

- **start** は netdump クライアントを起動します。
- **status** は netdump クライアントのステータスを表示します。
- **stop** は netdump クライアントを停止します。
- *ip-address-of-netdump-server* はクライアントが診断情報を送信する netdump サーバの IP アドレスを指定します。

### 使用方法の説明

カーネルのパニック クラッシュのイベントが発生すると、netdump クライアントは netdump サーバに診断情報を送信します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils netdump server

netdump サーバを設定します。

### コマンド構文

#### utils netdump server

```
add-client ip-address-of-netdump-client  
delete-client ip-address-of-netdump-client  
list-clients  
start  
status  
stop
```

### パラメータ

- **add-client** は netdump クライアントを追加します。
- **delete-client** は netdump クライアントを削除します。
- **list-clients** はこの netdump サーバに登録されているクライアントをリスト表示します。
- **sstart** は netdump サーバを起動します。
- **status** は netdump サーバのステータスを表示します。
- **stop** は netdump サーバを停止します。
- *ip-address-of-netdump-client* は netdump クライアントの IP アドレスを指定します。

### 使用方法の説明

カーネルのパニック クラッシュのイベントが発生すると、netdump が有効なクライアントシステムは netdump サーバに診断情報を送信します。

netdump 診断情報は、netdump サーバの *crash/* に格納されます。クライアントの IP アドレスおよび日付で名前が構成されるサブディレクトリに netdump 情報が含まれています。

各 Cisco Unified Communications オペレーティングシステム サーバは、netdump のクライアントとサーバのどちらとしても動作するように設定できます。

サーバが別の Cisco Unified Communications オペレーティングシステム サーバ上にある場合は、カーネルパニック トレース シグニチャのみがサーバに送信され、それ以外の場合はコア ダンプ全体が送信されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils network arp

このコマンドは、Address Resolution Protocol (ARP; アドレス解決プロトコル) テーブルのエントリをリスト表示、設定、または削除します。

### コマンド構文

**utils network arp**

```
list [host host] [page] [numeric]
set {host} {address}
delete host
```

### パラメータ

- **list** はアドレス解決プロトコル テーブルの内容をリスト表示します。
- **set** はアドレス解決プロトコル テーブルのエントリを設定します。
- **delete** はアドレス解決プロトコル テーブルのエントリを削除します。
- **host** はテーブルに追加したりテーブルから削除したりするホストのホスト名または IP アドレスを表します。
- **address** は削除するホストの MAC アドレスを表します。MAC アドレスは、XX:XX:XX:XX:XX:XX の形式で入力してください。

### オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。
- **numeric** : ホストをドット付き IP アドレスで表示します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils network capture eth0

指定したイーサネット インターフェイスの IP パケットをキャプチャします。

### コマンド構文

```
utils network capture eth0 [page] [numeric] [file fname] [count num] [size bytes] [src addr] [dest addr] [port num]
```

### パラメータ

- **eth0** は、イーサネット インターフェイス 0 を指定します。

### オプション

- **page** : 出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。  
page オプションまたは file オプションを使用する場合は、コマンドを終了する前に要求したすべてのパケットのキャプチャ全体が終了している必要があります。
- **numeric** : ホストをドット付き IP アドレスで表示します。
- **file fname** : 情報をファイルに出力します。  
file オプションは情報を platform/cli/fname.cap に保存します。ファイル名に「.」を含めることはできません。
- **count num** : キャプチャするパケットの数のカウントを設定します。  
画面出力の最大カウントは 1000 で、ファイル出力の最大カウントは 10,000 です。

- **size bytes** : キャプチャするパケットのバイト数を設定します。  
画面出力の最大バイト数は 128 で、ファイル出力の最大バイト数は ALL です。
- **src addr** : パケットの送信元アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
- **dest addr** : パケットの宛先アドレスをホスト名または IPV4 アドレスで指定します。
- **port num** : 送信元または宛先のパケットのポート番号を指定します。

#### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils network host

ホスト名からアドレスを解決したりアドレスからホスト名を解決したりします。

#### コマンド構文

```
utils network host hostname [server server-name] [page] [detail] [srv]
```

#### パラメータ

- **hostname** は解決するホスト名または IP アドレスを表します。

#### オプション

- **server-name** : 代替ドメイン ネーム サーバを指定します。
- **page** : 出力を 1 回に 1 画面ずつ表示します。
- **detail** : 詳細をリスト表示します。
- **srv** : DNS SRV レコードを表示します。

#### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils network ping

別のサーバに ping を実行できます。

#### コマンド構文

```
utils network ping destination [count]
```

#### パラメータ

- **destination** は ping するサーバのホスト名または IP アドレスを表します。

#### オプション

- **count** : 外部サーバを ping する回数を指定します。デフォルトのカウン트는 4 です。

#### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils network tracert

リモートの宛先に送信される IP パケットをトレースします。

### コマンド構文

`utils network tracert destination`

### パラメータ

- *destination* はトレースを送信するサーバのホスト名または IP アドレスを表します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils ntp

NTP のステータスまたは設定を表示します。

### コマンド構文

`utils ntp {status | config}`

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : あり

## utils remote\_account

リモート アカウントの有効化、無効化、作成、ステータスの確認ができます。

### コマンド構文

`utils remote_account`

`status`

`enable`

`disable`

`create username life`

### パラメータ

- *username* はリモート アカウントの名前を指定します。ユーザ名に使用できるのは小文字のみで 6 文字以上が必要です。
- *life* はアカウントの生存期間を日数で指定します。指定の日数が経過すると、アカウントは失効します。

### 使用方法の説明

リモート アカウントからパス フレーズが生成されます。このパス フレーズを使用して、シスコシステムズのサポート担当者は、指定された生存期間中にシステムにアクセスできます。1 回に有効にできるリモート アカウントは 1 つのみです。

**要件**

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：あり

**例**

```
utils remote_account status
```

**utils reset\_ui\_administrator\_name**

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページの管理者アカウント名をリセットします。

**コマンド構文**

```
utils reset_ui_administrator_name
```

**utils reset\_ui\_administrator\_password**

Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理ページのパスワードをリセットします。

**コマンド構文**

```
utils reset_ui_administrator_password
```

**utils service list**

すべてのサービスおよびそれらのステータスのリストを取得します。

**コマンド構文**

```
utils service list [page]
```

**オプション**

- **page**：出力を 1 回に 1 ページずつ表示します。

**要件**

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：あり

## utils service

サービスを停止、開始、またはリスタートします。

### コマンド構文

utils service

```
start service-name
stop service-name
restart service-name
auto-restart {enable | disable | show} service-name
```

### パラメータ

- *service-name* は停止または開始するサービスの名前を表します。次に例を示します。
  - System NTP
  - System SSH
  - Service Manager
  - A Cisco DB
  - Cisco Tomcat
  - Cisco Database Layer Monitor
  - Cisco Unified Serviceability
- **enable** は自動再起動を有効にします。
- **disable** は自動再起動を無効にします。
- **show** は自動再起動のステータスを表示します。

### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の許可の有無：なし

## utils sftp handshake

クラスタのすべてのメンバー間で SFTP SSH キーを交換します。

### コマンド構文

utils sftp handshake

## utils snmp test

ローカルの syslog、リモートの syslog、および SNMP トラップにサンプルアラームを送信して SNMP ホストをテストします。

### コマンド構文

utils snmp test

### 要件

コマンド特権レベル：0

アップグレード時の許可の有無：なし



## utils soap realservice test

リモート サーバでいくつかのテスト ケースを実行します。

### コマンド構文

```
utils soap realservice test remote-ip remote-https-user remote-https-password
```

### パラメータ

- *remote-ip* はテスト対象サーバの IP アドレスを指定します。
- *remote-https-user* は SOAP API へのアクセス権を持つユーザ名を指定します。
- *remote-https-password* は SOAP API へのアクセス権を持つアカウントのパスワードを指定します。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils system

同一パーティション上のシステムの再起動、非アクティブなパーティション上のシステムの再起動、またはシステムのシャットダウンができます。

### コマンド構文

```
utils system {restart | shutdown | switch-version}
```

### 使用方法の説明

`utils system shutdown` コマンドのタイムアウトは 5 分間です。システムが 5 分以内にシャットダウンしない場合、このコマンドによって強制シャットダウンのオプションが提供されます。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の許可の有無 : なし

## utils system upgrade

サーバのアップグレードを実行できます。

### コマンド構文

utils system upgrade

```
cancel
get {local | remote} filename
list {local | remote} path
start
```

### パラメータ

- **cancel** はアクティブなアップグレードをキャンセルします。
- **get** はアップグレード用のファイルを取得します。
- **local** はアップグレード ファイルがローカル ドライブにあることを指定します。
- **remote** はアップグレード ファイルがリモート システムにあることを指定します。
- **filename** はアップグレード ファイルの名前を指定します。
- **path** はアップグレード ファイルのパスを指定します。
- **list** は使用可能なアップグレード ファイルをリスト表示します。
- **start** は **get** パラメータで取得したアップグレード ファイルを使用してアップグレードを開始します。

### 使用方法の説明

システムをアップグレードするには、次の主要手順を実行します。

1. **utils system upgrade list** コマンドを使用して、アップグレード元となるローカル ディスクまたはリモート サーバ上で使用可能な .iso アップグレード ファイルをリスト表示します。
2. **utils system upgrade get** コマンドを使用して、使用するアップグレード ファイルを取得します。
3. **utils system upgrade start** コマンドを使用して、取得したアップグレード ファイルからアップグレードを開始します。



## INDEX

- C**
- CLI
- 概要 A-1
  - 基本 A-2
  - コマンド
    - 説明(表) A-4
    - ヘルプの取得 A-2
    - 補完 A-2
  - セッションの開始 A-1
  - セッションの終了 A-3
- CTL
- アップロード 6-4
  - 管理 6-2
  - ダウンロード 6-2
- I**
- Internet Explorer
- セキュリティ オプションの設定 6-1
- IPSec
- 新しいポリシーの設定 6-9
  - 管理 6-9
  - ポリシー フィールド(表) 6-9
  - ポリシーの表示 6-11
  - ポリシーの変更 6-11
- N**
- NTP サーバの設定 4-3
- P**
- ping 8-1
- S**
- SMTP 設定 4-4
- T**
- TFTP サーバ、ファイルのインストール 7-11
- い**
- イーサネットの設定 4-1
  - インストール
    - ダイヤル プラン 7-7
    - ロケール 7-8
  - インストール/アップグレード、メニュー 1-4
  - インストールされているソフトウェア
    - 手順 3-4
    - フィールド(表) 3-4
- え**
- エラー メッセージ
- 説明(表) 7-9
- お**
- オペレーティングシステム
- 概要 1-1
  - 管理者パスワード 2-3
  - サービス 1-4
  - 再起動 5-2
  - ステータス 1-2, 3-1
  - セキュリティ 1-3
  - 設定 1-2, 1-3, 3-1, 4-1
  - ソフトウェア アップグレード 1-4
  - ネットワーク ステータス フィールド(表) 3-3
  - ハードウェア ステータス
    - 手順 3-2
    - フィールド(表) 3-2
  - はじめに 1-1
  - ブラウザ要件 1-2
  - ログイン 2-1

## か

管理者パスワード 2-3

## く

## クラスタ ノード

手順 3-1

フィールド (表) 3-1

## こ

## コマンドライン インターフェイス

「CLI」を参照

## さ

## サービス

ping 1-4, 8-1

概要 8-1

リモート サポート 1-4

概要 8-2

設定 8-2

## 再起動

現在のバージョン 5-2

システム 5-1

サポート製品 7-10

## し

時間の設定 4-4

## システム

再起動 5-1

シャットダウン 5-3

## ステータス

手順 3-5

フィールド (表) 3-5

シャットダウン、オペレーティングシステム 5-3

## 証明書

アップロード 6-4

管理 6-2

再作成 6-3

削除 6-3

署名要求のダウンロード 6-7

ダウンロード 6-2

表示 6-2

有効期限日の監視 6-8

有効期限モニタのフィールド (表) 6-8

## 証明書信頼リスト

「CTL」を参照

## す

## ステータス

オペレーティングシステム 1-2, 3-1

## システム

手順 3-5

フィールド (表) 3-5

## ネットワーク

手順 3-3

フィールド (表) 3-3

## ハードウェア

手順 3-2

フィールド (表) 3-2

## せ

## セキュリティ

IE オプションの設定 6-1

概要 6-1

設定 1-3

メニュー 1-3

## 設定

IP 4-1

NTP サーバ 4-3

SMTP 4-4

## イーサネット

手順 4-1

フィールド (表) 4-2

オペレーティングシステム 1-2, 3-1

概要 4-1

時間 4-4

パブリッシャ 4-2

メニュー 1-3

## そ

## ソフトウェア

アップグレード 1-4

概要 7-1

- 手順 7-2
  - リモートソースから 7-5
  - ローカルソースから 7-3
  - インストール 7-2
  - インストールされている
    - 手順 3-4
    - フィールド(表) 3-4
- た
- ダイヤルプランのインストール 7-7
- ね
- ネットワークステータス
    - 手順 3-3
    - フィールド(表) 3-3
- の
- ノード、クラスタ
    - 手順 3-1
    - フィールド(表) 3-1
- は
- バージョン、再起動 5-2
  - ハードウェア、ステータス
    - 手順 3-2
    - フィールド(表) 3-2
  - パスワード、回復 2-3
  - パブリッシャの設定 4-2
- ひ
- 表示、メニュー 1-2
- ふ
- ブラウザ要件 1-2
- め
- メッセージ、エラー
  - メニュー
    - インストール/アップグレード 1-4
    - セキュリティ 1-3
    - 設定 1-3
    - 表示 1-2
- り
- リモートサポート
    - ステータスフィールド(表) 8-3
    - 設定 8-2
- ろ
- ログイン
    - 概要 2-1
    - 手順 2-1
  - ロケール
    - インストーラ
      - エラーメッセージ(表) 7-9
    - インストール 7-8
    - ファイル 7-9